

令和2年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学
保育科

目 次

1 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅰ	1
くらしと憲法	2
日本語の表現Ⅰ	3
文学	4
子ども文化	5
ボランティア活動	6
子どもと自然	7
保育の英語	8
健康・スポーツ論	9
情報処理	10

◆専門科目

音楽の理論と合奏	11
声楽Ⅰ	12
器楽Ⅰ（ピアノ）	13
幼児造形Ⅰ	14
幼児体育	15
保育内容の指導法 人間関係	16
保育内容の指導法 言葉	17
保育内容の指導法 表現	18
保育者論	19
心身の発達と学習過程	20
特別支援教育総論	21
保育原理	22
子ども家庭福祉	23
社会福祉	24

社会的養護Ⅰ	25
子どもの保健	26
子どもの食と栄養	27
乳児保育Ⅰ	28
子どもの健康と安全	29

2 年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学Ⅱ	31
日本語の表現Ⅱ	32

◆専門科目

児童文学	33
数論	34
生活科の研究	35
声楽Ⅱ	36
器楽Ⅱ（ピアノ）	37
幼児造形Ⅱ	38
幼児体育	39
保育内容の指導法 健康	40
保育内容の指導法 環境	41
教育原理	42
教育制度	43
教育課程・保育の計画と評価	44
幼児指導法	45
幼児理解と教育相談	46

保育・教職実践演習（幼稚園）	47
子ども家庭支援論	48
子ども家庭支援の心理学	49
発達心理学	50
保育内容総論	51
乳児保育Ⅱ	52
社会的養護Ⅱ	53
子育て支援	54

実 習

教育実習指導	55
保育実習指導Ⅰ	56
保育実習指導Ⅱ	57

※実習指導については、2年間を通して行う。

授業と科目の履修について

●出欠席等

- ① 出欠席については、授業科目毎に科目担当者が確認する。
- ② やむを得ない理由により欠席する場合は、科目担当者に「欠席届」を提出すること。緊急を要する場合は、教務課（018-862-0337）に連絡をすること。
- ③ 病気等やむを得ない理由により長期欠席をする場合は、医師の診断書等を添えて「欠席届」を教務課に提出する。
- ④ 遅刻は授業開始 10 分以内とし、科目担当者に申し出ること。早退は科目担当者及び担任に申し出ること。遅刻、早退は 2 回につき 1 時間分の欠席として扱う。
- ⑤ 本学には公認欠席や忌引の扱いはない。ただし、やむを得ない理由（災害、就職試験、実習オリエンテーション等）による遅刻・欠席については考慮される場合がある。
- ⑥ 授業の出席時数が、基準の 3 分の 2（実習、実技は 5 分の 4）に満たない者は受験資格を失い、単位は修得できない。

●科目の履修

- ① 科目には必修・選択の別がある。
- ② 選択科目は更に選択必修と自由選択の科目に分けられる。
これらについては、時間割表やシラバス等を参考に、学生自身が自らの責任において決定し、指定の期日までに教務課に「履修届」を提出しなければならない。
- ③ 「履修届」は、単位算定と成績評価の基礎となり、卒業及び教育職員免許状申請・保育士資格取得の要件につながるものである。
履修の具体的な説明については、次の時期に行う。
1 年次履修科目：教務課が適宜行う。
2 年次 「 」：教務課が適宜行う。
- ④ 科目によっては、授業内容上、受講者数を制限したり、受講者数が極めて少ない場合は開講しないこともある。
- ⑤ 履修科目の変更は、原則として指定期間内のみとする。
- ⑥ 届出以外の科目の授業及び試験は受けられない。
- ⑦ 自由選択科目について
自由選択科目を途中放棄する場合は、学長が定める日まで、教務課に申し出ること。指定された期日以降に途中放棄する場合は、成績評価を F（不合格）とする。

●成績

- ① 各科目の成績については、試験・レポート・作品・実技・実習・平素の学習状況・出席状況等により、総合的に評価する。
- ② 評点と評価基準は、次のとおりとする。
(学則第 24 条第 2 項)

評 点	評 価	
100 点～ 90 点	S	合 格
89 点～ 80 点	A	
79 点～ 70 点	B	
69 点～ 60 点	C	
59 点以下	F	不 合 格

1 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅰ		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	門戸 美智	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・通年	
授業の概要及び全体目標	旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身に付ける。旧約聖書に描かれている人間の姿は、現代社会と共通する点が多いことに気付くとともに、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる人生観」を具体的に学びキリスト教の精神で社会に貢献することを理解する。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	(1) 旧約聖書にみられる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解する 1) 天地創造から始まる人間の罪と神の愛を出来事の中で理解している 2) 旧約聖書の権力闘争、飢饉などの困難から脱出する力を神からの救いであると理解している (2) キリスト教の基本的精神を理解する 1) キリスト教の基本的祈りと聖書の読み方、捉え方を理解している 2) 聖心のミサ、クリスマスミサ、卒業感謝ミサを通して共に祈り、感謝することを理解している (3) 人生で遭遇する喜びと愛、孤独と悲嘆などの経験から人を愛し愛される大切さを理解する 1) 最初の人間の罪と恵みの問題を捉え神はどう人間を救おうとしているのか理解している 2) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り人も自然も守るべきものであることを理解している							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション 祈り 聖歌 聖書の使い方 読み方 授業の目的					(1)-1) 2),(2)-1)	
	2	聖書について 旧約聖書 新約聖書					(1)-1) 2),(2)-1)	
	3	天地創造 初めに神は天と地を創られた					(1)-1)	
	4	自然 神はすべてを良しとされた					(3)-1) 2)	
	5	自然 回勅『ラウダート・シ』について(1)					(3)-1) 2)	
	6	自然 回勅『ラウダート・シ』について(2)					(1)-1) 2)	
	7	最初の人間 神はご自分に似せて人を創造された 創世記2:4~2 創世記3:1~24					(1)-1) 2)	
	8	悪・人類最初の罪 アダムとエバとその罪					(1)-1) 2)	
	9	悪・人類最初の罪 カインとアベル 創世記4章					(1)-1) 2)	
	10	カリタスジャパンについて カリタスジャパンの活動を知り理解を深める					(3)-1) 2)	
	11	聖心について(み心の愛)					(2)-1) 2)	
	12	み心のミサと講演					(2)-1) 2)	
	13	悪・人類最初の罪 ノアの箱舟 洪水 創世記6章~10章					(1)-1) 2),(3)-2)	
	14	悪・人類最初の罪 バベルの塔 創世記11章					(1)-1) 2),(3)-1)	
	15	族長物語 アブラハム物語 イサク物語 ヤコブ物語 の流れ					(1)-2)	
	16	アブラハム イサク ヤコブの神 アブラハムの召し出し 創世記12章					(1)-1)	
	17	アブラハムとイサクの物語 最大の試し 創世記22章					(3)-1) 2)	
	18	アブラハム イサク ヤコブの神 ヤコブ物語 創世記25章19~34					(3)-1) 2)	
	19	ヨゼフ物語 創世記37章					(1)-1) 2)	
	20	ヨゼフ物語 創世記42章					(1)-1) 2)	
	21	救い モーセと出エジプトの物語(1)					(1)-1) 2),(3)-1) 2)	
	22	待降節とミサについて					(2)-1) 2)	
	23	クリスマスミサに参加					(2)-1) 2)	
	24	救い モーセと出エジプトの物語(2)					(1)-1) 2)	
	25	救い モーセと出エジプトの物語(3) 主の過ぎ越し					(2)-1) 2)	
	26	救い モーセと出エジプトの物語(4) 律法と十戒					(3)-1) 2)	
	27	神は預言者によって語られた(1) ヨシュア記 士師記 ルツ記					(1)-1) 2)	
	28	神は預言者によって語られた(2) サムエル記 ダビデ					(1)-1) 2)	
	29	神は預言者によって語られた(3) 列王記 ソロモン					(1)-1) 2)	
	30	神は預言者によって語られた(4) イザヤ書 イザヤ エレミア					(1)-1) 2)	
成績評価の方法	試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー・感想(20%)							
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注:『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドン・ボスコ)							
参考文献・資料	ガエタノ・コンプリ著『人生に光を』(ドン・ボスコ) ラシャベル・アンドレ著『聖書と人間Ⅰ』(サンパウロ)							
事前・事後学習	授業で使用するプリントを読んでおき、授業後もう一度授業の箇所を読み、自分の生活を振り返り考察する。							

科目名	くらしと憲法		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	山本 尚子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	憲法の内容と基本的な考え方を自らの社会生活に根ざしたものと理解する。						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 憲法の基本的な考え方を理解することができる 1) 憲法の意義について理解することができる 2) 憲法の基本原則を理解することができる (2) 人権について理解することができる 1) 自由権の意義、内容について理解することができる 2) 社会権の意義、内容について理解することができる (3) 憲法が定める国の統治に関わる制度を理解することができる 1) 選挙制度、立法・行政・司法の役割と関係について理解する (4) 成人として必要な法的知識を身につける 1) 刑事裁判制度、消費者としての知識、身分関係の一般的な法的知識を理解する						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	憲法の意義 憲法の規定する内容を確認し、各法律との関係について理解を深める					(1)-1) 2)
	2	憲法の歴史 日本国憲法の成り立ちやその位置付けについて説明する					(1)-1) 2)
	3	幸福追求権 幸福追求権とは何かということについて具体的事例を通して理解を深める					(2)-1)
	4	法の下での平等 法の下での平等が意味する平等について具体的事例を通して考える					(1)-2)
	5	内心の自由 内心が制約されていた歴史を踏まえ、内心の自由の不可侵性を理解する					(2)-1)
	6	表現の自由 表現の自由の重要性を理解し、現代社会における送り手としてだけでなく受け手として保障されていることを理解する					(2)-1)
	7	経済的自由権 経済的自由権はどのような権利を保障しているかということを説明する					(2)-1)
	8	人身の自由 刑事手続の流れについて説明し、被告人等に関する基本的人権を保障する意味を考える					(2)-1) (4)-1)
	9	社会権 昨今の生存権や労働権について具体的事例を取り上げ、社会権が保障する内容を説明する					(2)-2)
	10	国民主権 国民主権の意義を説明し、我々の生活をどのように保障するかを理解する					(1)-1) 2) (3)-1)
	11	国会・内閣・裁判所 国会、内閣、裁判所のそれぞれの権能、三者間の関係について説明し、統治機構の理解を深める					(3)-1)
	12	地方自治 地方自治の意義について理解を深める					(3)-1)
	13	平和主義 具体的事例を取り上げながら、憲法9条の意味について考える					(1)-1) 2)
	14	憲法の保障 違憲立法審査権について具体的事例を取り上げ説明する					(3)-1)
15	最高法規制 憲法が国内において最高法規であることの意味を説明する					(1)-1) 2)	
成績評価の方法	定期試験 (80%)、授業参加態度・意欲 (20%)						
テキスト	『デイリー六法 令和2年版』(三省堂)						
参考文献・資料	『憲法 第六版』(岩波書店)						
事前・事後学習	日々、社会の出来事について、憲法や法律を意識して捉えて欲しい。それらの考えを授業と関連付けて積極的な発言を期待する。						

科目名	日本語の表現 I		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・通年	
授業の概要及び全体目標	小学校・中学校・高等学校において身に付けてきた国語の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付けることを目指す。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする</p> <p>1) 表記・文法・敬語などの国語の基礎的知識を身につけ、適切に表現できる</p> <p>2) バランスのよい文字や文章の書き方を工夫し、適切に表現できる</p> <p>3) 場にあわせて適切な表現方法や技術を駆使して、適切に表現できる</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする</p> <p>1) 情報や自分の考えを整理し吟味することで論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばすことができる</p> <p>2) 他者との関わりの中で表現や意見を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる</p>							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション	— 保育者に求められる国語力とは、授業目標・内容・評価方法の説明、【短作文1】			(1)-1) 2) 3)		
	2	国語力トレーニング	— 敬語とは・尊敬語			(1)-1)		
	3	国語力トレーニング	— 謙譲語①・謙譲語②・丁寧語①・丁寧語②			(1)-1)		
	4	国語力トレーニング	— 状況に合わせた敬語・第三者を交えた敬語・電話や手紙における敬語			(1)-1)		
	5	国語力トレーニング	— 誤った敬語の使い方・さまざまな敬意表現・敬語の学習のまとめ			(1)-1)		
	6	総合演習1	— 日本語検定過去問 演習・解説			(1)-1)		
	7	国語力トレーニング	— 可能動詞・受身と使役・文のねじれ			(1)-1)		
	8	総合演習2	— 日本語検定過去問 演習・解説			(1)-1)		
	9	日本語検定				(1)-1)		
	10	日本語表現の基礎	— 話し方の基本、美しい文字の書き方			(1)-1) 2) 3)		
	11	日本語表現の基礎	— 正しい表記と表現 【スピーチ開始】			(1)-1) 2) 3)		
	12	文章表現の基礎	— 文章作成の注意事項 【短作文2】			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	13	文章表現の応用	— 小論文①			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	14	文章表現の応用	— 小論文②			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	15	文章表現の応用	— 小論文③			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	16	文章表現の応用	— 手紙・礼状の書き方			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	17	文章表現の応用	— 絵本論読解			(2)-1) 2)		
	18	文章表現の応用	— 絵本評を書く			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	19	日本語表現の応用	— レポート「聖園だより」について			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	20	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」作成1 記事・レイアウトを考える			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	21	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」作成2 下書き			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	22	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」作成3 清書①			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	23	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」作成4 清書②			(1)-1) 2) 3), (2)-1)		
	24	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」相互評価①			(1)-3), (2)-2)		
	25	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」相互評価②			(2)-2)		
	26	日本語表現の応用	— 「聖園祭だより」自己評価			(2)-2)		
	27	日本語表現の応用	— 「しりとり絵本」作り方			(1)-3), (2)-1) 2)		
	28	日本語表現の応用	— 「しりとり絵本」制作①			(1)-3), (2)-1) 2)		
	29	日本語表現の応用	— 「しりとり絵本」制作②			(1)-3), (2)-1) 2)		
30	日本語表現の応用	— 「しりとり絵本」合評、まとめ			(1)-3), (2)-1) 2)			
成績評価の方法	日本語検定 (40%)、提出課題 (50%)、作成や発表、ディスカッションへの参加態度 (10%)							
テキスト	日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座 中級』(東京書籍)							
参考文献・資料	授業各回で提示や紹介をする							
事前・事後学習	事前に学習範囲を提示、資料を配布するので、取り組んでおくこと。講義内容をノートなどにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。							

科目名	文学		必修・選択	選択必修		授業形態	講義	
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	「絵本学」という観点から、絵本に関するさまざまな分野、領域についての基礎理論や基礎知識を学ぶ。児童文化財である絵本をさまざまな角度から捉えることにより、絵本についての造詣を深め、絵本選びや読み聞かせなどの実践につなげる。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 絵本の基本事項について体系的に学ぶ 1) 歴史・機能・読者・種類について理解する 2) 絵本作品を読み、それぞれの特色を理解する (2) 絵本の視読解をとおして、絵本のさまざまな表現やその効果を理解する 1) 絵とテキスト(言葉)の表現機能・相乗効果について理解する 2) 用途や目的に合わせた絵本選びができる 3) 自分の見解や考察をまとめ、発表することができる。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション —さまざまな絵本の見方・絵本の基礎概念					(1)-1)	
	2	絵本の歴史1 —世界の絵本の歩み					(1)-1) 2)	
	3	絵本の歴史2 —日本の絵本の歩み					(1)-1) 2)	
	4	絵本のテキスト1 —現代の絵本、主題の多様化、表現の可能性					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	5	絵本のテキスト2 —文の機能と絵の機能					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	6	絵本のテキスト3 —画面展開と描写の技法、絵本の視覚表現、色彩表現					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	7	絵本のテキスト4 —時間と空間の表現、絵本の画材と技法					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	8	絵本と読者1 —子どもの発達と絵本、赤ちゃん絵本、幼児と絵本、小中学生と絵本					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	9	絵本と読者2 —障がい者と絵本、絵本の読み合い・読み聞かせ、絵本の選び方					全項目	
	10	絵本の種類1 —創作(物語)絵本					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	11	絵本の種類2 —さまざまなジャンルの絵本					(1)-1) 2) (2)-1) 3)	
	12	個人研究1 —テーマ・絵本を決める					全項目	
	13	個人研究2 —調査・研究					全項目	
	14	個人研究3 —レポートとプレゼンテーション資料の作成					全項目	
15	個人研究発表会					全項目		
成績評価の方法	提出課題(50%)、研究発表・レポート(40%)、授業態度・意欲(10%)							
テキスト	生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著：『ベーシック絵本入門』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	授業各回で提示や紹介をする							
事前・事後学習	事前にテキストや絵本を読んで授業に臨むこと。 講義内容をノートにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。							

科目名	子ども文化		必修・選択	選択必修		授業形態	講義	
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびを通して幼児の表現とその発達について理解する。 ・幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項についての知識・技能等を身に付ける。 ・子どもを取り巻く社会の変化の中で子ども文化の重要性と課題について理解する。 							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 児童文化の意味を理解し、知識を習得することができる。</p> <p>1) 沢山のあそびを体験し、その楽しみ方や魅力を理解することができる。</p> <p>2) あそびが持つ意義を理解することができる。</p> <p>3) 仲間と関わりを持つことで社会性を身に付けることができる。</p> <p>(2) 保育における文化財について学び、役立てる技能を身に付ける。</p> <p>1) 伝承あそびについて、その歴史や変化の過程を理解し、指導法を習得することができる。</p> <p>2) あそびが持つ意義を把握することができる。</p> <p>3) 実際に仲間とあそびを楽しむことにより、生きるエネルギーを蓄積することができる。</p>							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション					(1)-1) 2)	
	2	子どもを取り巻く環境					(1)-1) 2) (2)-2)	
	3	こどもとあそびの関係					(1)-1) 2) (2)-2)	
	4	伝承あそびの意義					(1)-1) 2) (2)-2)	
	5	伝承あそびの実際 1 けん玉 おはじき お手玉 等					(1)-1) 2) (2)-1)	
	6	伝承あそびの実際 2 ことばあそび 等					(1)-1) 2) (2)-1)	
	7	伝承あそびの実際 3 うたあそび 等					(1)-1) 2) (2)-1)	
	8	伝承あそびの実際 4 折り紙					(1)-1) 2) (2)-1)	
	9	集団での創作活動 1 演劇 発声練習					(1)-3) (2)-3)	
	10	集団での創作活動 2 演劇 構成確認					(1)-3) (2)-3)	
	11	集団での創作活動 3 演劇 構成および動作について					(1)-3) (2)-3)	
	12	集団での創作活動 4 演劇 構成および動作について					(1)-3) (2)-3)	
	13	制作作品の発表 1					(1)-3) (2)-3)	
	14	制作作品の発表 2					(1)-3) (2)-3)	
15	まとめ					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	提出課題 (30%)、実技発表 (30%)、授業参加態度・意欲 (40%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	なし							
事前・事後学習								

科目名	ボランティア活動		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	藤原法生・金澤久美子	担当形態	複数	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>ボランティア活動の原則や歴史の変遷を踏まえて、ボランティア活動の意義を理解する。社会や自身の成長に資するボランティア活動の必要性を理解する。</p> <p>講義のほか、体験学習やグループワーク等を行い、ともに感じて考えながら具体的な学びができる授業構成とする。</p>						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) ボランティア活動の意義について理解する。</p> <p>1) ボランティア活動の原理を理解している。</p> <p>2) ボランティア活動の歴史と現状を理解している。</p> <p>(2) ボランティア活動を行う組織とそれを支援する組織について理解する。</p> <p>1) ボランティアグループとNPOについて理解している。</p> <p>2) ボランティアの支援体制について理解している。</p> <p>(3) ボランティア活動の領域について理解する。</p> <p>1) 対人活動について理解している。</p> <p>2) 環境や災害に関する活動について理解している。</p> <p>(4) 福祉教育について理解する。</p> <p>1) 福祉教育の必要性を理解している。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	ボランティア活動の基礎 ボランティアの語源、ボランティアとはなにか					(1)-1)
	2	ボランティア活動の原理 自発性、主体性					(1)-1)
	3	ボランティア活動の原理 社会性、無償性、創造性・開拓性・先駆性					(1)-1)
	4	ボランティア活動の歴史 戦前戦後の活動、災害とボランティア					(1)-2)
	5	ボランティア活動の現状 活動の種類と範囲					(1)-2)
	6	ボランティア活動の組織 ボランティアグループ、NPO					(2)-1)
	7	ボランティアに対する支援 ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター					(2)-2)
	8	ボランティア活動の種類と実際 障害者、高齢者とのかかわり					(3)-1)
	9	ボランティア活動の種類と実際 児童とのかかわり					(3)-1)
	10	ボランティア活動の種類と実際 地域の人とのかかわり					(3)-1)
	11	ボランティア活動の種類と実際 環境への対応					(3)-2)
	12	ボランティア活動の種類と実際 災害への対応					(3)-2)
	13	ボランティア活動の種類と実際 国際活動					(3)-1) 2)
	14	福祉教育 教育機関や地域における福祉教育					(4)-1)
15	まとめ ボランティア活動の展望					(1)-1) (4)-1)	
成績評価の方法	提出課題・レポート (60%)、授業・ディスカッションへの参加態度 (40%)						
テキスト	柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編：『ボランティア論』(みらい)						
参考文献・資料	必要に応じて提示						
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。						

科目名	子どもと自然		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	永井 博敏	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>○人間の生活が自然と深く関わり合っていることに関心を持ち、自ら進んで自然環境や事象に触れようとするなど意欲的で実践的な行動力を身に付ける。</p> <p>○子どもの探索活動や興味・関心の支えに生かせるよう、身近な事例から取り上げた動植物や自然事象に関する基礎的知識等を理解する。</p>						
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	<p>(1) 身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに興味・関心を持ち、進んで探究しようとする。</p> <p>1) 身近な動植物や自然事象に関心を示し、課題解決に積極的に取り組む。</p> <p>2) 身近な自然にかかわろうとする意欲を高め、授業内・外での体験活動に主体的に取り組む。</p> <p>3) 自然環境を生かして生活を豊かにしている人々の知恵や歴史に学ぼうと意欲的に行動する。</p> <p>(2) 身近な動植物や自然事象に関する課題を解決するための基本的な知識・技能を修得する。</p> <p>1) 身近な動植物や自然事象に関する基本的な知識を分かりやすく説明することができる。</p> <p>2) 課題解決のために必要な観察やデータ収集、製作等の技能を身に付け、実際に活用できる。</p> <p>(3) 自然事象に関して、科学的な思考や判断をし、その過程・結論を自分なりの方法で表現できる。</p> <p>1) 知り得た情報や体験をもとに分析・思考し、事象変化等の因果関係を導くことができる。</p> <p>2) 課題解決の過程や成果を個々の特性に応じた多様な表現方法で他者に伝えることができる。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	身近な動植物の名称を言えますか 自然と日本人の文化《秋の七草》その由来と草花の特徴					(1)-1) 3) (2)-1)
	2	身近な植物(草花)の基礎知識「厳しさを生き抜く雑草の秘密」 近隣の公園や道端に見られる秋の草本類・木本類 その特徴と生活への活用					(1)-1) 3) (2)-1) 2)
	3	身近な草花・樹木のまとめ 大森山動物園のフィールドワーク・ガイダンス(行動展示の特徴と意義)					(1)-2) (2)-1) 2)
	4	フィールドワーク「大森山動物園の生きものたち」 動物展示の観察や触れ合い体験					(2)-1) 2) (3)-2)
	5	動物園フィールドワーク(FW)の振り返り 「子ども目線で動物園クイズを作成しよう」(グループ活動から全体発表まで)					(2)-1) (3)-1)
	6	男鹿水族館GAOの魚類・水生動物たちの特徴 映像資料『ハタハタの謎に迫る』の視聴					(1)-1) 2) 3) (2)-1)
	7	フィールドワーク「男鹿水族館GAOの生きものたち」 男鹿水族館の展示観察と“えさやりタイム”体験、ハタハタ資料室での現地学習					(2)-1) (3)-1)
	8	フィールドワークのまとめの表現活動 水族館の体験に基づく表現活動(FW報告書『○○○のミニ図鑑』作成)					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)
	9	身のまわりの物理学「パスカルとアルキメデス」 動くおもちゃ「浮沈子」の製作と、物体の浮沈現象の課題解決					(1)-1) 3) (3)-1) 2)
	10	ルーペで知る微細な世界1「カタクチイワシの煮干し解剖」 煮干しの解剖(魚の器官・内臓等を観察)と解剖標本の作成					(1)-2), (2)-2) (3)-2)
	11	ルーペで知る微細な世界2「チリメンモンスターを探す」 チリメンジャコの中から魚や水生動物の幼生・稚魚の発見及び標本作成					(1)-2), (2)-2) (3)-2)
	12	ルーペで知る微細な世界3「身の回りの品々に見つける微細な特徴」 野菜・草花・果実種子・海産乾物・印刷物等の細部観察とスケッチ					(1)-2), (2)-2) (3)-2)
	13	里山の自然と生活1 映像資料「里山の音景色」 里山にあふれる『音』を通して考える“日本人の生活と自然との密接な関係性”					(1)-3), (2)-2) (3)-1) 2)
	14	里山の自然と生活2 映像資料「ニッポンの里山ふるさとの絶景」秋田編3編 県内各地の『水』を通して考える“人々の生活と秋田の豊かな自然との関係性”					(1)-1) 3) (3)-2)
15	映像資料から学ぶ科学の進歩「最新科学の目で見るニッポンの子育て事情」 “育児不安”を脳科学・生理学・人類学の最新の研究成果から読み解く映像学習					(1)-1) 3) (3)-2)	
成績評価の方法	小テスト(20%)、レポート(30%)、製作・表現の作品(30%) 体験活動の準備片付け・取り組み態度・学習ポートフォリオ(20%)						
テキスト	授業ごとに自作資料(A4判)を配布する。ファイルを用意し、学習ポートフォリオとなるよう資料・レポート・作品等を保存する。						
参考文献・資料	関連する資料は授業時に紹介する。 映像資料は主に自然科学関連のDVD・番組録画等による。						
事前・事後学習	自然事象への好奇心を高めるよう身近な自然の探索や観察を自主的・日常的に行うこと。 講義内容の定着を図るための事後学習(自然観察・課題追究・レポート)を課すことがある。 フィールドワーク・観察・製作の用具・材料等の準備は学修の前提として極めて重要である。						

科目名	保育の英語		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	大西 絵理香	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	国際化する社会の変化にともなって、保育の現場でも外国人の子どもの受け入れが増加している現状に対応する力を身につけるため、外国人園児の入園を想定した教科書の学習を通して、英語による子どもの保育や保護者との対応方法を学ぶ。また、言語知識だけではなく、異文化間コミュニケーションに必要な配慮の仕方を理解し、身につける。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	(1) 日本語を話せない園児が入園する場合を想定し、保育の中で英語を用いながら子どもとコミュニケーションを取る方法を理解している。 1) 遊びや活動、給食、トイレなどの場面で英語で子どもとコミュニケーションを取ることができる。 2) 言語の壁が原因でトラブルが生じた場合、その背景を理解したうえで対処を行うことができる。 (2) 日本語を話せない保護者との対応を想定し、子どもの様子や活動に関して英語を用いて報告することができる。 1) 日常の保育や活動における子どもの様子を会話表現で伝えることができる。 2) 連絡帳や園だよりの英文訳を用いて保育に関する情報を伝えることができる。 (3) 保育に関する英語の基礎的知識を持っている。 1) 園児の持ち物や園内にある物、身体部位などに関する英語の語句を理解できる。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	Unit 1: First Step to Childcare English 外国人の親子との初対面のあいさつや自己紹介、園内の場所に関する語句					(1)-1) (2)-1)	
	2	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School 初対面のあいさつ、保育室内のものを表す語句、保育の事例に関する資料を読む					(1)-1) (2)-1)	
	3	Unit 3: Time and Numbers 登園時間のお願い、園児の持ち物を伝える語句、持ち物に関する指示とお願い					(2)-1) 2) (3)-1)	
	4	Unit 4: Directions 保育所周辺の場所の案内方法、外国人家庭への生活面のアドバイス					(2)-1) 2)	
	5	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi 子どもを遊びに誘う表現、園庭にあるものを表す語句、遊びを表す語句					(1)-1) (3)-1)	
	6	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up 登園・降園時のあいさつ、子どもの様子の伝え方、泣いている子どもへの言葉かけ					(1)-1) (2)-1)	
	7	Unit 7: Jobs at Nursery School 子どもの年齢による保育者の仕事の違い、外国人園児保育に関する事例資料					(1)-2)	
	8	Unit 8: Lunchtime 給食やおやつでの言葉かけ、食文化の違い、献立や調理法に関する表現					(1)-1) (2)-1)	
	9	Unit 9: Toilet Dialog: 子どもの排泄に関する表現、英文による連絡帳の記入方法					(1)-1) (2)-2)	
	10	Unit 10: Fighting 子どものけんかやトラブル時の言葉かけ、子どもへの指示、身体部位を表す語					(1)-1) 2) (3)-1)	
	11	Unit 11: Injuries and Illnesses 子どものけがと応急処置に関する表現、子どもの体調不良時の報告方法					(1)-1) (2)-1)	
	12	Unit 12: Telephone Calls 電話連絡に英語で対応する方法、緊急時に英語で電話連絡を行う方法					(2)-1)	
	13	Unit 13: Field Trip 年間行事予定表や各種行事のお知らせを英語で作成する方法					(2)-1) 2)	
	14	Unit 14: Baby Care 赤ちゃんの様子や成長を英文で表現する方法、育児観に関する文化的相違					(2)-1) 2)	
15	Unit 15: Graduation Day 卒園の際に英語で祝福を表現する方法、保護者とのあいさつの表現					(1)-1) (2)-1)		
成績評価の方法	定期試験 (70%)、レポート (20%)、授業プリント提出 (10%)							
テキスト	赤松直子・久富陽子共著：『保育の英会話 (Childcare English)』(萌文書林)							
参考文献・資料	咲間まり子編：『多文化保育・教育論』(みらい) 山田千明編著：『多文化に生きる子どもたち』(明石書店)							
事前・事後学習	授業で学んだことを今後の実習や専門科目の授業でいかに活用できるかを考え、意識を持ち続けることが重要である。							

科目名	健康・スポーツ論		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人生を送るために、「健康」というものを理解し、その知識を生かす力を学ぶ。 ・健康な生活に欠かすことができないスポーツの位置づけを学び、その楽しみ方や技能について理解する。 							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 健康を多角的にとらえ、日々の生活にいかすことができる。</p> <p>1) 健康な生活を維持するための必要な知識を習得することができる。</p> <p>2) 自分自身の心身の状態を認識し前向きに生きていく術を探ることができる。</p> <p>(2) スポーツの意義を理解し実際の活動にいかすことができる。</p> <p>1) するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツの魅力を探ることができる。</p> <p>2) 生涯にわたって、体を動かすことの楽しみを理解することができる。</p> <p>3) 生涯を通し、スポーツを楽しめる方法を習得することができる。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション					(1)-1) 2)	
	2	健康についての理解 1 健康の定義					(1)-1) 2)	
	3	健康についての理解 2 健康の必要性					(1)-1) 2)	
	4	健康な生活について 1 セロトニンについて					(1)-1) 2)	
	5	健康な生活について 2 睡眠について					(1)-1) 2)	
	6	食と健康の関係 1 食事の意義					(1)-1) 2)	
	7	食と健康の関係 2 栄養について					(1)-1) 2)	
	8	食と健康の関係 3 食が身体に及ぼす影響					(1)-1) 2)	
	9	体力について					(1)-1) 2)	
	10	運動と基礎代謝					(1)-1) 2)	
	11	スポーツの意義					(2)-1) 2) 3)	
	12	スポーツの起源					(2)-1) 2) 3)	
	13	スポーツの重要性					(2)-1) 2) 3)	
	14	スポーツと健康の関係					(2)-1) 2) 3)	
15	まとめ					(1)-1) 2) (2)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	提出課題 (30%)、レポート (30%)、授業態度・意欲 (40%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	なし							
事前・事後学習	自分自身の日々の健康管理を意識する。							

科目名	情報処理		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	杉館 俊彦	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を学び、ITリテラシーを高める 1) ワードソフトを活用し、適切な文書を作成することができる 2) 表計算ソフトを活用し、分かりやすい資料を作成することができる 3) プレゼンテーションソフトを活用し、分かりやすい資料を作成することができる (2) 個人データの取り扱いや情報倫理の重要性を理解する 1) 電子データの共有によるメリット・デメリットを理解できる 2) インターネット (SNS等の利用含む) の取り扱いの注意点を理解できる							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	ガイダンス 本学パソコン室の機器の使用法注意点を説明。					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 2)	
	2	情報倫理の重要性を学ぶ					(2)-1) 2)	
	3	個人情報保護の重要性について学ぶ						
	4	インターネット (SNS等の利用含む) の取り扱いについて学ぶ						
	5	ワープロソフトの機能と操作を学ぶ 1) 「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。 2) Wordのオートシェイプ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。 3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。 4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。 5) 暑中見舞いはがき・カードの作成を通して、はがき作成を理解する。					(1)-1)	
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
13								
14								
15	表計算ソフトの機能と操作を学ぶ 1) 「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。 2) 「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。 3) 「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。 4) 「身体計測記録台帳」の作成を通して、グラフの作成方法を習得する。					(1)-2)		
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25	プレゼンテーションソフトの活用 簡単なホームページを作成し、情報共有を体験する プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。アニメーションの使い方を理解する。 ホームページビルダーを使用しホームページの仕組みとリンクを理解する。					(1)-3)		
26								
27								
28								
29								
30								
成績評価の方法	提出課題 (80%)、授業態度・意欲 (20%)							
テキスト	『保育者のためのパソコン講座 Windows 10/8.1/7 Office 2010/2013/2016 対応版』							
参考文献・資料	なし							
事前・事後学習								

科目名	音楽の理論と合奏		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	東海林美代子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、楽譜を理解できるようにする。子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体およびグループでの合奏を通して表現する喜びを味わう。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 音楽の基礎理論を理解できる 1) 音符や休符、拍と拍子、音名、速度記号等、楽譜に書かれている様々な要素を理解できる 2) 音程や調について理解し、＃・♭3個までの長音階が弾け、書ける 3) 基礎的なコードについて理解し、演奏できる (2) 簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむことができる 1) カスタネット、すず、タン布林等の基礎的な奏法を習得し、さらにミュージックベルやトーンチャイム、マリンバ等の演奏体験により、合奏を楽しむことができる (3) 音楽の三要素の一つであるリズムについて、様々なリズムを経験する 1) 複雑なリズムやリズムによるアンサンブルを楽しむことができる							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	保育における表現活動と音楽の役割 幼児が親しみやすい楽器 リズム遊び 楽器を用いた自己紹介					(2)-1 (3)-1	
	2	写譜 楽譜に書かれている様々な要素 音符と休符 拍と拍子 小節 リズム打ち (5拍子、7拍子)					(1)-1 (3)-1	
	3	音名 奏法記号 速度記号 リズム打ち (3拍子、9拍子)					(1)-1 (3)-1	
	4	音楽用語 全音と半音 リズムアンサンブル (3・5・7・9拍子)					(1)-1)2 (3)-1	
	5	確認テスト (全音と半音) 音階 (いろいろな音階) リズム打ち (プリント) 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	6	音階 (長音階＃系) リズム打ち (プリント) 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	7	音階 (長音階♭系) リズム打ち (プリント) ミュージックベル合奏「Are You Sleeping?」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	8	音階と調 まとめ リズム打ち (プリント) ミュージックベル合奏「手をたたきましょう」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	9	演習テスト (長音階上行形のみを弾く) リズム打ち (プリント) ミュージックベル合奏「ラバースコンチェルト」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	10	確認テスト (調について) 音程 (数え方と種類) リズム打ち (プリント) 「チョップスティックス」					(1)-2), (2)-1 (3)-1	
	11	コードの仕組みとコードネーム リズム打ち (プリント)					(1)-3 (3)-1	
	12	ハ長調のコードと主要三和音 リズム打ち (プリント)					(1)-3 (3)-1	
	13	ト長調、ニ長調、ヘ長調の主要三和音 リズム打ち (プリント)					(1)-3 (3)-1	
	14	旋律譜にコードをつけて演奏する リズム打ち (プリント)					(1)-3 (3)-1	
15	旋律譜にコードをつけて演奏する 器楽合奏「チョップスティックス」 まとめ 授業評価					(1)-3), (2)-1 (3)-1		
成績評価の方法		授業態度・意欲 (60%)、実技発表・演習テスト (40%)						
テキスト		なし (必要に応じてプリントを配布します) ※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること						
参考文献・資料		『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)						
事前・事後学習		「音階」「コード」については、授業のノートを活用して十分に復習をすること。						

科目名	音楽Ⅰ		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	櫻庭 優佳	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・通年	
授業の概要及び全体目標	「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。幼児教育者として必要な歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌や季節を感じる日本の歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏し、音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心を高め、理解を深める。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 音楽の三要素(リズム・メロディー・ハーモニー)を理解し、歌唱することができる 1) 正しい音程・リズムで歌唱することができる 2) 少人数アンサンブルや合唱などにおいて、2声以上のハーモニーを美しく演奏できる 3) 正しいリズム・メロディー・ハーモニーを聴き分け、アンサンブルをより良いものにしようとしている (2) ミサ曲や聖歌、子どもの歌などの歌唱を通して、歌にとっての良い発音や良い姿勢・表情について理解し、意欲的に体現しようとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声をしようとしている 2) 人前で歌うことに慣れ、その楽しさを味わおうとしている 3) 周りの人とともに声を合わせ歌うことの楽しさを分かち合うことができる							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション 事前学習課題「視唱課題」について個々の取り組み内容を確認する					(1)-1), (2)-1)	
	2	ソルフェージュ・リズム① 2拍子、3拍子、4拍子を理解しリズム打ちする					(1)-1) 3)	
	3	ソルフェージュ・リズム② 2拍子、3拍子、4拍子、6拍子を理解し、リズム打ちする					(1)-1) 3)	
	4	ソルフェージュ・リズム③ ミニテスト～拍子を理解しリズム打ちの課題に挑戦する					(1)-1) 3)	
	5	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサにむけて～① 18番「かいぬしわが主よ」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	6	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサに向けて～② 1番「あわれみの賛歌」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	7	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサに向けて～③ 2番「栄光の賛歌」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	8	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサに向けて～④ 3番「感謝の賛歌」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	9	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサに向けて～⑤ 33番「ごらんよ空の鳥」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	10	ミサ曲・聖歌(1)～み心のミサに向けて～⑥ 42番「愛をください」45番「神さまがわかるでしょ」の音取りをし、練習する					(1)-1) 3), (2)-1) 3)	
	11	季節の歌(1)～春・夏～① グループ毎に春・夏の歌を選曲し、発表に向けて練習に取り組む					(1)-1), (2)-1) 3)	
	12	季節の歌(1)～春・夏～② グループ毎に選曲した歌について、練習を深める					(1)-1), (2)-1) 3)	
	13	季節の歌(1)～春・夏～③ グループ毎に季節の歌を発表し、互いの演奏から学び合う					(1)-1), (2)-1) 2) 3)	
	14	「子どもの歌」の合唱① 各パートの音取りをし、演奏できるようになる					(1)-1), (2)-1)	
	15	「子どもの歌」の合唱② パート練習に取り組み、より正確な音程やリズムで歌えるようになる					(1)-1) 3), (2)-1)	
	16	「子どもの歌」の合唱③ 各パートの音やハーモニーの響きを味わいながら合唱に取り組む					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	17	「子どもの歌」の合唱④ 歌にふさわしいパフォーマンスを加えた演奏になるよう工夫する					全項目	
	18	ミサ曲・聖歌(2)～クリスマスミサに向けて～① 26番「しずけき」30番「あべトレヘムよ」の音取りをし、練習する					(1)-1) 3), (2)-1) 3)	
	19	ミサ曲・聖歌(2)～クリスマスミサに向けて～② 29番「もろびとこそぞりて」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	20	ミサ曲・聖歌(2)～クリスマスミサに向けて～③ 27番「きたれ友よ」28番「まきびと」の音取りをし、練習する					(1)-1) 3), (2)-1) 3)	
	21	ミサ曲・聖歌(2)～クリスマスミサに向けて～④ 7番「さやかに星はきらめき」の音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	22	季節の歌(2)～秋・冬～① グループ毎に秋・冬の歌を選曲し、発表に向けて練習に取り組む					(1)-1), (2)-1) 3)	
	23	季節の歌(2)～秋・冬～② グループ毎に季節の歌を発表し、互いの演奏から学び合う					(1)-1), (2)-1) 2) 3)	
	24	アルカデルト作曲Ave Maria① 言葉、発音、歌詞の意味について理解する					(1)-1), (2)-1)	
	25	アルカデルト作曲Ave Maria② ソプラノ(メロディー)の音取りをし、言葉で歌えるようになる					(1)-1), (2)-1)	
	26	アルカデルト作曲Ave Maria③ アルトパートの音取りをし、どちらのパートも歌えるようになる					(1)-1), (2)-1)	
	27	アルカデルト作曲Ave Maria④ ソプラノ・アルトに分かれてパート練習に取り組み、より正確に歌えるようになる					(1)-1), (2)-1)	
	28	アルカデルト作曲Ave Maria⑤ グループ毎に練習に取り組み、2声の少人数アンサンブルができるようになる					(1)-1) 2) 3), (2)-1) 3)	
	29	アルカデルト作曲Ave Maria⑥ 発表・ミニテスト～グループ毎に演奏し、互いの演奏から学び合う					全項目	
30	音楽Ⅰのまとめ 卒業感謝のミサや卒業式に向けての聖歌などを練習し、1年間の学びを振り返る					全項目		
成績評価の方法	テスト(実技テスト)20%、発表(授業内での演奏発表)20% 授業態度・意欲(授業内でのグループ練習や個人練習における参加態度など)60%							
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著:改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」							
参考文献・資料	その都度、提示や紹介、配布をする							
事前・事後学習	音楽Ⅰでは数多くの知らなかった歌に取り組む。新しい歌との出会いを前向きに捉え、授業前の譜読み、授業後の復習に積極的に取り組んでほしい。また、音程やリズム、発音について疑問や不安に思うことがあったらその都度質問をし、練習に生かすこと。							

科目名	器楽 I (ピアノ)		必修・選択	必修		授業形態	演習
担当者	東海林美代子 他8名	担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1年・通年
授業の概要及び全体目標	<p>幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。 簡易伴奏による子どもの歌の弾き歌いができるようにする。 1時間に4～5名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。 入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、4名程度のグループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。</p>						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼児教育者として必要なピアノの基礎的な演奏技術を習得する 1) テキスト中の「バイエル練習曲」や他の楽曲に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる (2) 音楽に対する感性を磨き、表現力を高める 1) 他者の演奏を聴くことにより楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする (3) 子どもの歌を簡易伴奏によって弾き歌いができる 1) テキスト中の「子どもの歌」について曲想を理解し、ピアノ演奏ができ、弾き歌いができる ※ピアノ経験の有無や個々の進度・能力に応じたレッスン形式で行うため、授業内容は個人により進め方等が異なる場合がある</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	入学前課題「ピアノ」について、個々の取り組み内容を確認する 次回の課題を各自に課す					(1)-1)
	2	テキストSTEP 1 No.22～ ピアノ練習曲に取り組み 読譜、両手奏に慣れる					(1)-1), (2)-1)
	3	同上					(1)-1), (2)-1)
	4	同上					(1)-1), (2)-1)
	5	テキストSTEP 2 No.38～ ピアノ練習曲に取り組み スムーズな運指になるよう繰り返し取り組む					(1)-1), (2)-1)
	6	同上					(1)-1), (2)-1)
	7	同上 強弱、フレージング等も意識する					(1)-1), (2)-1)
	8	同上					(1)-1), (2)-1)
	9	同上 個々の進度を考慮し前期試験曲を指導担当者との話し合いにより選曲する					(1)-1), (2)-1)
	10	チャペルコンサート「音楽と祈りの集い」において独唱、三重唱、オルガン独奏等を鑑賞し、ともに聖歌を歌うことで「み心のミサ」へ向けて気持ちを高める					(2)-1)
	11	前期試験曲等の楽曲に取り組み					(1)-1), (2)-1)
	12	同上 楽曲の特徴や曲想を感じ取り暗譜で演奏できるようにする					(1)-1), (2)-1)
	13	同上					(1)-1), (2)-1)
	14	前期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする)					(1)-1), (2)-1)
	15	テキストSTEP 2のピアノ練習曲、STEP 1の弾き歌い曲に取り組み 前期試験結果と夏休み期間の課題について					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	16	テキストSTEP 2のピアノ練習曲を進めながら、合わせてSTEP 1の弾き歌い曲にも取り組む					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	17	同上 「弾き歌い」に慣れる					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	18	同上 STEP 2の弾き歌い曲に取り組み					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	19	同上					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	20	同上					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	21	同上 弾き歌い曲のレパートリーを増やす					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	22	同上 はっきりと歌えるようにする					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	23	同上 歌とピアノ伴奏のバランスを考えて演奏する					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	24	同上					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	25	同上 これまで取り組んだ曲から指導担当者との話し合いにより後期試験曲を選曲する					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	26	後期試験曲と合わせてピアノ練習曲にも引き続き取り組む					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	27	同上 楽曲の特徴や曲想を感じ取り暗譜で演奏できるようにする					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	28	同上					(1)-1), (2)-1), (3)-1)
	29	後期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で弾き歌い曲1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする)					(2)-1), (3)-1)
30	後期試験結果と次年度へ向けた課題について引き続きSTEP 2・STEP 3の楽曲に取り組む					(1)-1), (2)-1), (3)-1)	
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業参加態度・意欲(50%)						
テキスト	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する						
参考文献・資料	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						
事前・事後学習	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。						

科目名	幼児造形 I		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	菊地 眞樹子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	<p>○造形表現活動を通して、知識・技能を身に付け、美術を愛好する心情を養う。</p> <p>○幼児の造形表現に触れ、保育者としての支援の大切さに気づき、実践への心構えをもつ。</p>							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 造形表現活動に意欲的に取り組み、自分なりの発想を大切にしながら、工夫して制作することができる。</p> <p>1) 様々な題材に関心を持ち、意欲的に取り組む。</p> <p>2) よさや美しさ、楽しさを求めて、自分なりに発想、構想をする。</p> <p>3) 様々な材料の性質を生かす表現方法を工夫する。</p> <p>(2) 幼児の造形活動に触れ、発達に応じた表現の変化を知るとともに、効果的な支援のあり方を考えることができる。</p> <p>1) 幼児の造形活動に関心を持ち、共感的に理解できる。</p> <p>2) 造形活動を支援する保育者の役割を考えることができる。</p> <p>3) 幼児の造形活動をうながす環境について考えることができる。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	ガイダンス 幼児の造形活動について					(2)-1) 2) 3)	
	2	色彩の基礎					(1)-1) 2)	
	3	色のことば、形のことば (造形言語である色や形について)					(1)-1) 2) 3)	
	4	描画素材の体験① (クレヨン、パステル、絵の具などの特色)					(1)-1) 3) (2)-2)	
	5	描画素材の体験② (スクラッチ、フロッターージュ、ぼかし、バチックなど)					(1)-1) 3) (2)-2)	
	6	バチックを使った作品づくり					(1)-1) 2) 3)	
	7	ステキな花びん① 紙粘土による成形					(1)-1) 2) 3)	
	8	ステキな花びん② 彩色					(1)-1) 2) 3) (2)-2)	
	9	ペーパークラフトの基本					(1)-1) 3)	
	10	飛び出すカード① 紙を活用した動くしくみ					(1)-1) 2) 3)	
	11	飛び出すカード② 美しく、楽しいカード					(1)-1) 2) 3) (2)-2) 3)	
	12	生き物づくり① 木片やくぎ、針金などによる造形					(1)-1) 2) 3)	
	13	生き物づくり② 材料、用具の使い方					(1)-1) 2) 3)	
	14	生き物づくり③ 彩色					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)	
15	色水遊びの指導					(2)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	提出課題 (50%) 授業態度・意欲 (50%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	『色彩ナビ』(財団法人日本色彩研究所) 榎 英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林)							
事前・事後学習	○日常生活の中で、『美しさ』に関心を向ける。 ○学習したことを応用して何か制作してみる。							

科目名	幼児体育		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児に適した様々な運動あそびを経験することで、その重要性や意義を理解する。 ・ 集団遊びを通して、コミュニケーション能力をみがく。 ・ あそびを実際に経験することで、そのバリエーションを広げる術を知る。 							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼児のための運動あそびの重要性や意義についての知識を習得することができる。</p> <p>1) 実際にあそび体験し、その楽しみや魅力を理解することができる。</p> <p>2) あそびを理解し、指導法を身につけることができる。</p> <p>3) 集団の一員としての関わりを持つことで社会性を養うことができる。</p> <p>(2) 日常的な自分自身の体力強化について意識することができる。</p> <p>1) 幼児向けにあそびに、積極的に取り組むことができる。</p> <p>2) 既存のあそびからバリエーションを広げていく術を習得することができる。</p>							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション					(1)-1) 2) 3)	
	2	運動あそびの理論と実際 1 運動あそびの意義					(1)-1) 2) 3)	
	3	運動あそびの理論と実際 2 運動あそびと子どもの発達について					(1)-1) 2) 3)	
	4	創作ダンス 1 パフォーマンスの考え方					(1)-3) (2)-1) 2)	
	5	創作ダンス 2 グループ制作					(1)-3) (2)-1) 2)	
	6	創作ダンスの細かな部分の修正					(1)-3) (2)-1) 2)	
	7	創作ダンスの発表、意見交換					(1)-3) (2)-1) 2)	
	8	創作ダンス まとめ					(1)-1) 2) (2)-1)	
	9	運動あそびの指導法 1 運動あそびと事故の関連性					(1)-1) 2) (2)-1)	
	10	運動あそびの指導法 2 運動あそびと環境について					(1)-1) 2) (2)-1)	
	11	運動あそびの指導法 3 運動嫌いな子供について考える					(1)-1) 2) (2)-1)	
	12	あそびの作り方 1 年齢にあったあそびの作り方					(1)-1) 2) (2)-1)	
	13	あそびの作り方 2 四季折々のあそびについて					(1)-1) 2) (2)-1)	
	14	あそびの作り方 3 環境作りを考える					(1)-1) 2) (2)-1)	
15	まとめ					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)		
成績評価の方法	提出課題 (30%)、実技発表 (30%)、授業態度・意欲 (40%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	なし							
事前・事後学習	日々、遊びに対して広い視野を持って情報を吸収し情報を得る。							

科目名	保育内容の指導法 人間関係		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	加藤 順子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深め、幼児が人と関わる力の基礎を養うことの重要性を知る。その上で、幼児が、他の人と親しみ、支え合って生活し、自立心をもって、主体的に人と関わる力を養う具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付ける。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、「人と関わる力」の基礎づくりの重要性を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領に示された保育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造を理解している。</p> <p>2) 幼児期に「人間関係」の基礎を養うことの重要性と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 保育における実践のPDCAサイクルによる評価について理解している。</p> <p>4) 集団生活を通して、様々な人と関わる経験と小学校以降の生活とのつながりについて理解している。</p> <p>(2) 子どもの具体的な姿から発達を読み取り、具体的な指導場面を想定し「人と関わる力」を育てる援助の方法を身に付ける。</p> <p>1) 人と関わりながら楽しい園生活を体験することができる場の設定と構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 乳幼児期の発達を考慮し、具体的な場面における個に応じた援助について考えることができる。</p> <p>3) 遊びや生活の中で幼児の内面(思いや願い・思考等)を捉え、人間関係を深める具体的な援助について考え、情報機器の活用を含めた実践への意欲をもつことができる。</p> <p>4) 具体的な場を想定し指導案を作成し、模擬保育やロールプレイ、グループカンファレンス等を通して検討を加え、保育の改善を目指すことができる。</p> <p>5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	保育の基本と、保育内容の5領域と「人間関係」との関連 ・「生きる力」の原点としての人間関係について理解する。					(1)-1) 2)	
	2	幼児理解と一人一人に応じる保育の必要性(ビデオ視聴と感想記入、情報交換) ・一人一人の思いや願いの捉えと個に応じる保育者の支援を考える。					(1)-2) (2)-2) 3)	
	3	保育内容「人間関係」に示してある3項目のねらいと13の内容 ・保育における「人間関係」の重要性と内容の取扱いについて理解する。					(1)-1) 2)	
	4	乳児期における「人との関わり」の発達と保育者の援助 ・エピソード記録によるグループカンファレンスで、援助の在り方を探る。					(2)-3) 4)	
	5	幼児期における「人との関わり」の発達と自立心を育む保育者の援助 ・ロールプレイで、援助の在り方を探る。					(2)-2)	
	6	児童期以降の「人との関わり」と「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」 ・人間関係の発達と幼小の連携について理解を深める。					(1)-4) (2)-4)	
	7	遊びの重要性と遊びの中で育つ「人との関わり」(自己主張、ルール、折り合い、協同等) ・ビデオ視聴・エピソード記録等で、遊びの中で育つ人間関係と保育者の援助を考える。					(1)-3) (2)-3)	
	8	生活の中で育つ「人との関わり」と協同的な活動の構想(PDCAの評価方法の理解) ・指導案作成と模擬保育、振り返り・評価で、指導案を改善することができる。					(1)-3) (2)-4)	
	9	「人間関係」を深める遊びや活動(模擬保育・実演等) ・人間関係を深める遊びや活動を紹介し合い、遊びの重要性を理解する。					(2)-1) 3)	
	10	保育者同士の連携と園全体での連携、保護者との連携、地域との連携 ・具体的な事例を通し、連携の重要性を知る。・保護者面談のロールプレイを体験する。					(2)-2) 3)	
	11	保育者同士の連携と園全体での連携、保護者との連携、地域との連携 ・具体的な事例を通し、連携の重要性を知る。・保護者面談のロールプレイを体験する。					(1)-2) (2)-1) 2)	
	12	人間関係を育む保育者の保育上の留意点 ・「自我の育ちと自己制御」「依存と自立」「社会性の個性」等から、保育の本質を振り返る。					(1)-2) (2)-1) 2)	
	13	人間関係の今日的な課題と情報機器の活用 ・「人と関わる力」における今日的な課題について考えるとともに、具体的な援助や指導における情報機器や教材の活用について探る。					(2)-3) 5)	
	14	幼児理解と保育者の資質向上(ビデオ視聴・グループカンファレンス) ・「人間関係」を育てる保育者としての学びと自分の変容について自己評価する。					(2)-4) 5)	
15	豊かな「人間関係」を育てる保育者の夢と保育者の自己教育力 ・保育者としての夢と保育者としての成長について語り合う。					(2)-4) 5)		
成績評価の方法		定期試験(60%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(20%)						
テキスト		森上史郎ほか:『最新保育講座8 保育内容人間関係』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領解説(最新版)』						
参考文献・資料		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)』『保育所保育指針解説(最新版)』						
事前・事後学習		授業内容に合わせてテキストや関連資料を読み、授業の準備をする。 授業後、テキストに再度目を通し、学習内容をまとめて記録する。						

科目名	保育内容の指導法 言葉		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	<p>幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そのうえで、幼児の発達に関して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい、内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並び全体構造を理解している。 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「言葉」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 実習や模擬保育、グループディスカッションなどの実践演習を通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と関連付けることを通して理解する。					(1)-1)	
	2	幼児の言葉と「幼児期に育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の言葉における評価の考え方を理解する。					(1)-1) 2) 3)	
	3	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、乳幼児が経験しながら身に付けていく言葉の内容と指導上の留意点を理解する。					(1)-2) (2)-1) 2)	
	4	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(1) ～乳児期の発達～					(1)-2) 3)	
	5	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(2) ～1歳から3歳の発達～					(1)-2) 3)	
	6	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(3) ～3歳から5歳の発達～					(1)-2) 3)	
	7	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(4) ～書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉～					(1)-2) 3) 4)	
	8	生活に必要な言葉の習得を支える援助について理解し、言葉を育む環境構成について考える。					(2)-3) 5)	
	9	言葉による伝え合いを育む援助について理解し、言葉を豊かにする環境構成について考える。					(2)-3) 5)	
	10	絵本、紙芝居などの言葉を豊かにする教材について、情報機器の活用を含めて保育の中で生かす実践方法について考える。					(2)-2) 3) 4)	
	11	言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊び(しりとり、言葉集めなど)を保育の中で生かす実践方法について考える。					(2)-3) 4)	
	12	言葉を豊かにする教材としての「すばなし」を中心とした模擬保育の実践					(2)-3) 4)	
	13	保育研究の論文やインターネットで発信されている乳幼児の言葉の発達過程や遊びの実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。					(2)-2) 3) 5)	
	14	領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成に取り組む					(2)-3) 5)	
15	指導案の作成を通して「言葉」の授業を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む					(2)-4) 5)		
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業態度・意欲(グループワーク・実技など)(30%)							
テキスト	柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』、『保育用語辞典』							
事前・事後学習	毎授業ごとに振り返りの記録を行う。 授業内容と関連するテキストや関連資料を読み、内容を深め、ノートをまとめ指定日に提出する。							

科目名	保育内容の指導法 表現		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並び全体構造を理解している。 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「表現」の特性、及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育などの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けることを通して理解する。					(1)-1)	
	2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動に育みたい資質・能力について具体的に考える。					(1)-1) 2)	
	3	表現活動と「幼児期に育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。					(1)-1) 2) 3)	
	4	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。					(1)-1) 2) 3) (2)-1)	
	5	幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。					(1)-1) 2) 3) 4)	
	6	3歳未満児の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。					(2)-1) 2) 3)	
	7	3歳～5歳の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。					(2)-1) 2) 3)	
	8	五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(音を聴いて色や形、身体で表現するなど)					(2)-1) 3)	
	9	手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(造形活動と音楽的活動を連動し表現するなど)					(2)-1) 3)	
	10	自然(風・光・影など)や自然物(土、石、葉、木の実など)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。					(2)-1) 3)	
	11	身近な素材(新聞紙、封筒、紙コップ、ペットボトルなど)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。					(2)-1) 3)	
	12	保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。					(2)-3) 5)	
	13	これまでの学びを踏まえ総合的な表現活動を実践するために指導案を作成する。					(2)-1) 3) 4)	
	14	作成した指導案をもとに模擬保育を展開し、保育構想の向上に取り組む。					(1)-1) (2)-1) 2) 4) 5)	
15	自分で作成したドキュメンテーションを基にグループで発表しあい、これまで学んだ総合的な表現活動について振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深める。					(1)-1) (2)-1) 2) 5)		
成績評価の方法	授業ノート(50%)、課題提出(30%)、授業態度・意欲(20%)							
テキスト	『幼稚園教育要領(最新版)』『保育所保育指針(最新版)』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』・適宜、資料を配布する							
参考文献・資料	『保育用語辞典』							
事前・事後学習	毎授業ごとに振り返りの記録を行う。 授業内容と関連する試料を読み、ノートをまとめ指定日に提出する。							

科目名	保育者論		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	加藤 順子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	現代社会における教職・保育職の重要性の高まりを背景に、教職・保育職の意義、教員・保育者の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職・保育職への意欲を高めるとともに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。話し合いや発表を通して主体的・対話的に学び、教職・保育職について理解を深める。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 我が国における今日の学校教育や保育、教職・保育職の社会的意義を理解する。</p> <p>1) 公教育・保育の目的とその担い手である教員・保育者の存在意義を理解している。</p> <p>2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職・保育職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教育・保育の動向を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。</p> <p>1) 教職観・保育職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割を理解している。</p> <p>2) 今日の教員・保育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員・保育者の職務内容の全体像や教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。</p> <p>1) 乳幼児への指導・援助及び指導・援助以外の園務等を含めた教員・保育者の職務の全体像を理解している。</p> <p>2) 教員・保育者研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</p> <p>3) 教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) 幼稚園・保育施設等の担う役割が拡大・多様化する中で、園・施設等が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p> <p>1) 園・施設内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	保育者の役割 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の役割と専門性、子育て支援における役割					(1)-1) 2) (2)-1)	
	2	保育者の倫理 専門的倫理の概念と法律、服務上・身分上の義務、専門的倫理を高めるために					(3)-3)	
	3	保育者の資格と責務 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資格とその要件、職務、研修					(1)-2) (3)-2) 3)	
	4	養護と教育 養護と教育の内容、養護と教育が一体となった保育					(3)-1)	
	5	保育者の資質と能力 保育者に求められる資質能力、子どもの育ちを支える専門職の資質能力					(2)-1) 2)	
	6	専門的な知識・技術・判断 保育者の専門的知識・技術・判断とは何か					(2)-2)	
	7	保育の省察 省察とは、記録を用いた省察、保育者の専門性としての省察					(3)-1)	
	8	教育・保育の全体的な計画に関わる保育者の専門性 子どもの主体性を尊重する教育・保育の展開、子どもの発達過程を見通した計画					(3)-1)	
	9	教育・保育の計画と保育者の専門性 環境を通して行う教育・保育、遊びを通しての指導・援助、育みたい資質能力					(3)-1)	
	10	保育者の専門性と自己評価 教育・保育の質の向上と評価、自己評価の基本、教育・保育の質と今後の課題					(2)-1) (3)-2)	
	11	チーム学校運営への対応1 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での協働 組織体制の構築、職員間の連携、情報提供と協働、ドキュメンテーションと協働					(4)-1)	
	12	チーム学校運営への対応2 専門機関との連携 医療機関・保健機関・療育機関・教育機関等との連携					(4)-1)	
	13	保護者及び地域社会との協働 保護者との連携、地域社会との連携、小学校等との連携、家庭的保育者との連携					(1)-1) (4)-1)	
	14	保育者の専門性の発達 保育者としての発達の道筋、保育者の専門的成長					(3)-2)	
15	保育者のキャリア形成 教育・保育の場における学び、保育者の資質向上、保育者のキャリア形成					(3)-2)		
成績評価の方法	定期試験 (70%)、授業態度・意欲 (30%)							
テキスト	児童育成協会 監修 矢藤誠慈郎・天野珠路 編：『基本保育シリーズ7 保育者論第2版』(中央法規出版)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説(最新版)』『保育所保育指針解説(最新版)』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)』							
事前・事後学習	授業内容と関連するテキスト部分を事前に読み学習する。授業後、学習内容をまとめて理解を深める。子ども、教育、保育、家庭等に関するニュースや記事に関心をもつ。							

科目名	心身の発達と学習過程		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	加藤 順子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた経験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方を理解する。課題や事例についての話し合いや発表、考察などを通して、具体的な指導・援助の在り方について理解を深める。</p>							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 1) 子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育・保育における発達理解の意義を理解している。 2) 乳幼児期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 (2) 子どもの学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた経験や学習を支える指導・援助について基礎的な考え方を理解する。 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 2) 主体的学習や活動を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3) 子どもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習や活動を支える指導・援助の基礎となる考え方を理解している。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	発達を通じた子どもへの理解 子ども理解における発達の把握、発達の原理・原則、発達を理解するための手法					(1)-1) 2)	
	2	個人差や発達過程に応じた教育・保育 個人差とは、発達過程とは					(1)-1) 2)	
	3	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 子どもにとっての経験とは何か、身体感覚と知覚					(1)-1) 2)	
	4	環境としての保育者と子どもの発達 子どもと環境の相互作用、教育・保育の環境と保育者、保育者の関わりが子どもに与える影響					(1)-1) (2)-2) 3)	
	5	子ども相互の関わりと関係づくり 仲間とともに育つ、社会性の発達、仲間関係の発達といざこざ					(1)-2) (2)-1) 2) 3)	
	6	自己主張と自己統制 自己認識の発達、自己統制の発達、他者の理解と心の理論					(1)-1) 2)	
	7	子ども集団と教育・保育の環境 個と集団、集団内でのつまずき、集団を意識した教育・保育の環境					(2)-1) 2) 3)	
	8	子どもの生活と学び 学びとは何か、学びの理論、学びを育む教育・保育					(2)-1) 2) 3)	
	9	子どもの遊びと学び 遊びとは何か、遊びの分類、遊びを通して学ぶ					(1)-2) (2)-1) 2)	
	10	生涯にわたる生きる力の基礎を培う 生きる力とは何か、生きる力の基礎となる要素					(2)-1) 2) 3)	
	11	基本的な生活習慣の獲得と発達援助 基本的な生活習慣とは何か、保育者としての発達援助、養護と教育の一体化					(1)-1) 2)	
	12	自己の主体性の形成と発達援助 主体性とは何か、主体性を育む教育・保育					(1)-1) (2)-2) 3)	
	13	発達の課題に応じた援助や関わり 個人差に配慮した発達援助、特別な配慮が必要な子どもへの発達援助					(1)-2) (2)-3)	
	14	地域との連携、発達の連続性と就学への支援 発達の連続性とは何か、幼稚園・保育所・こども園等と小学校の連携					(1)-1) 2)	
15	現代社会における子どもの発達と教育・保育の課題 子どもを取り巻く問題と教育・保育の課題、コミュニケーションの課題と教育・保育の役割					(1)-1) (2)-3)		
成績評価の方法	定期試験 (60%)、提出課題 (20%)、授業態度・意欲 (20%)							
テキスト	松本峰雄 監修：『よくわかる！保育士エクササイズ4 保育の心理学演習ブック』 (ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説 (最新版)』、『保育所保育指針解説 (最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版)』							
事前・事後学習	授業内容と関連するテキスト部分を事前に読み学習する。 授業後、テキストや資料を再読し、学習課題についてまとめて理解を深める。							

科目名	特別支援教育総論		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	藤井 慶博	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	○さまざまな障害や個別のニーズによって特別な支援や配慮を必要とする幼児が、園生活の満足感を味わいながら発達に必要な経験を重ねることを通して生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の遊びや生活上の困難を理解し、そのニーズに応じた対応をしていくための基本的な知識や支援方法を理解するとともに実践的に学ぼうとする意欲や態度を身に付ける。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 特別な支援を必要とする幼児等の障害の特性及び心身の発達を理解する 1) 保育を含むインクルーシブ教育システムの構築等、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み等を理解するとともに障害者理解に努めようとしている。 2) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を要する幼児の心身の発達や心理的的特性及び諸能力の育つ過程を理解している。 3) さまざまな障害のある幼児の園生活や社会生活上で経験する困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別な支援を必要とする幼児を対象とする教育課程及び支援の方法を理解する 1) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児に対する支援の在り方や具体的方法について例示することができる。 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 3) 特別支援教育の在り方や教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の重要性を理解し、その作成や活用についての基礎的な事項を理解している。 4) 特別支援コーディネーターや療育関係機関、家庭、教育委員会等との連携を深めながら、幼児個々の教育的ニーズを支援する体制づくりと長期的な実践の重要性を理解している。 (3) 障害はないものの特別なニーズをもつ幼児の園生活上の困難やその対応策を理解している。 1) 貧困や育児放棄などの劣悪な養育環境及び母国語使用等に起因するさまざまな困難に直面している幼児等の課題、保育との関連や長期的な教育支援の在り方について理解している。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	障害児者の実態と障害者施策・社会の障害者観の変遷					(1)-1) 3) (3)-1)	
	2	障害児教育の変遷と障害児保育の基本方針(幼稚園教育要領と保育所保育指針、学習指導要領等の記述から)					(1)-1) (2)-2) 3)	
	3	視覚障害の特性と生活上の困り感 －視覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	4	聴覚障害の特性と生活上の困り感 －聴覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	5	知的障害の障害特性と生活上の困り感 －知的発達に遅れのある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	6	肢体不自由の特性と生活上の困り感 －肢体不自由の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	7	自閉症スペクトラム障害の特性と生活上の困り感 －自閉症スペクトラム障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	8	注意欠如多動症の特性と生活上の困り感 －注意欠如多動症の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	9	学習障害の特性と生活上の困り感 －学習障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	10	病弱・身体虚弱児(重症心身障害児含む)の理解と生活上の困り感 －病弱・身体虚弱児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－					(1)-2) 3) (2)-1)	
	11	障害児保育における合理的配慮の考え方と具体的内容					(1)-1) 2) (2)-1) 4)	
	12	障害のある幼児を支える園内支援体制の構築(特別支援教育コーディネーター、園内委員会、特別支援学校のセンター的機能・専門家チームの活用)					(1)-1) (2)-4)	
	13	障害のある幼児に関する「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の作成演習					(1)-2) 3) (2)-1) 2) 4)	
	14	周りの幼児に対する障害の理解とその実践					(1)-1) (2)-3)	
15	障害や貧困・差別など困難を抱えた人々との共生社会の実現と教育の在り方 障害者差別解消法の意義と障害者理解を進めるインクルーシブ教育の重要性					(1)-1) 3) (3)-1)		
成績評価の方法	レポート(50%)、演習課題(30%)、授業態度・意欲(20%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	中央教育審議会初等中等教育分科会(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」、幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、特別支援学校幼稚部教育要領(最新版)、授業中に適宜資料を配布するのでファイルすること。							
事前・事後学習	授業では基本的な事項や心構えを取り扱うので、予習・復習を主とする授業外学習を通して、主体的に多くの関連情報を求めることが授業内容の定着と拡大深化に不可欠である。また、平素から障害児者との触れ合い・交流やボランティアなどの社会体験活動等を通じて、共生社会に必要な障害理解(障害者理解)を深めること。							

科目名	保育原理		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義	
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	子どもの育ち、保育の意義、保育制度・歴史など、保育者として知っておく必要がある基本的な理論や知識について学ぶ。また、保育のしくみ、保育の計画、保育方法など日常の保育を支える理論や人的環境としての保育者の役割について理解する。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1)「幼児理解」のために、保育者が子どもをどのように理解し、保育につなげていくのかという視点を持ち、保育の意義や保育の基本について理解する。 1) 保育に関する専門的知識を習得し、保育実践に向けての基本的な考え方を身につける。 2) 子どもの育ちを理解し、発達過程に応じた援助や環境構成の重要性を理解する。 3) 保育の内容と方法について理解する。 (2) 日本の保育や西洋の保育の歴史及び思想について学び、過去から現在に至るまでの保育の変遷を理解する。 1) 家庭や子ども、社会に関わる保育の歴史や保育の思想を理解する。 2) 保育の思想と歴史の変遷を学び、現在の保育に対応する保育のあり方を考えることができる。 3) 現代社会における保育の課題を歴史的な視点から考えることができる。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	保育の基本(1) 子どもの最善の利益と保育					(1)-1) 2) 3)	
	2	保育の基本(2) 保育の社会的役割と責任					(1)-1) (2)-3)	
	3	保育における子ども理解 「子ども観」・「保育観」と保育					(1)-1) 2)	
	4	保育の歴史(1) 日本の保育施設の誕生と思想					(2)-1) 2) 3)	
	5	保育の歴史(2) 諸外国の保育施設の誕生と思想					(2)-1) 2) 3)	
	6	保育の制度 平成以降の保育、日本の保育制度					(2)-1) 2)	
	7	保育の特性 環境を通して行う教育、発達過程に応じた保育					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)	
	8	保育の内容 保育のねらいと内容、領域の考え方					(1)-1) 2) 3)	
	9	保育の方法(1) 保育形態と保育方法、生活と遊びを通じた総合的な保育					(1)-1) 2) 3)	
	10	保育の方法(2) 幼児期にふさわしい生活、個と集団を生かした保育					(1)-1) 2) 3)	
	11	保育の計画と実践(1) 保育計画の意義、保育課程と指導計画					(1)-1) 2) 3)	
	12	保育の計画と実践(2) 長期指導計画と短期指導計画、指導計画作成の留意点					(1)-1) 2) 3)	
	13	保育の実践・評価 省察・評価の意義、保育の評価と改善					(1)-1) 2) 3) (2)-3)	
	14	保育の現状と課題 家庭との連携、特別な配慮を必要とする子どもへの対応					(1)-1) 2) 3)	
15	保育者の専門性 保育の質を高めるための保育者の資質・能力					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	試験(70%)、授業態度・意欲(30%)							
テキスト	渡邊英則、高嶋景子、大豆生田啓友、三谷大紀編著:『新しい保育講座1 保育原理』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	厚生労働省編:『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)、森上史朗・柏女靈峰編:『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)							
事前・事後学習	現代社会の子どもをめぐる様々な問題に興味・関心をもって、意欲的な態度で授業に臨んでくれることを期待する。授業後には授業内容についてのふりかえりを記入し、自分なりの子ども観・発達観・保育観を語るができるようになってほしい。							

科目名	子ども家庭福祉		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義	
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	子ども家庭福祉の理念や歴史の変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、子ども家庭福祉の実現について理解する。また、福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。 子どもや家庭に関する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷について理解する。 1) 子ども家庭福祉の理念や子どもの権利を理解している。 2) 子ども家庭福祉の歴史と現状を理解している。 (2) 子ども家庭福祉の領域や制度について理解する。 1) 子ども家庭福祉の制度と法体系を理解している。 2) 児童福祉施設の体系と概要を理解している。 3) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 4) 子ども家庭福祉の専門職について理解している。 (3) 地域における子ども家庭福祉の現状と展望について理解する。 1) 地域の環境と課題や地域住民を含む連携のあり方について理解している。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	社会福祉・子ども家庭福祉の理念と概念 福祉と保育					(1)-1)	
	2	子ども家庭福祉の現状 少子社会、子どもと家庭を取り巻く環境					(1)-2) (2)-3)	
	3	子どもの権利保障					(1)-1)	
	4	子ども家庭福祉の歴史の変遷					(1)-2)	
	5	子ども家庭福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関					(2)-1)	
	6	児童福祉施設等 児童福祉施設の規定、体系、サービス提供の方法					(2)-1) 2)	
	7	児童福祉施設の概要 保育所、幼保連携型認定こども園、乳児院					(2)-1) 2)	
	8	児童福祉施設の概要 児童養護施設					(2)-1) 2)	
	9	児童福祉施設の概要 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター					(2)-1) 2)	
	10	家庭への福祉サービス 子育て支援サービス、保育サービス					(2)-3)	
	11	家庭への福祉サービス 社会的養護					(2)-3)	
	12	家庭への福祉サービス 児童虐待、DV					(2)-3)	
	13	家庭への福祉サービス 障害がある児童、貧困家庭					(2)-3)	
	14	子ども家庭福祉の専門職					(2)-4)	
15	地域における子ども家庭福祉の現状と展望 地域住民を含む社会資源と連携、諸外国の動向					(3)-1)		
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業・ディスカッションへの参加態度(30%)							
テキスト	直島正樹、河野清志 編著：『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』(萌文書林) 『社会福祉小六法 2020』(ミネルヴァ書房)、『保育者のための児童家庭福祉データブック 2020』(中央法規出版)							
参考文献・資料	必要に応じて提示							
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。							

科目名	社会福祉		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義	
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	社会福祉の理念や歴史の変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、福祉の実現について理解する。また、社会福祉における保育士の役割についても理解する。日常生活に関連する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 社会福祉の意義や歴史の変遷について理解する。 1) 社会福祉の理念や概念を理解している。 2) 社会福祉の歴史と現状を理解している。 (2) 社会福祉の制度や実施体系について理解する。 1) 社会福祉の制度と法体系を理解している。 2) 社会保障制度の概要について理解している。 (3) 社会福祉における相談援助や利用者の権利について理解する。 1) 相談援助の意義について理解している。 2) 相談援助の方法と技術について理解している。 3) 利用者の権利擁護について理解している。 (4) 地域における社会福祉の現状と展望について理解する。 1) 地域の環境と課題や、地域住民を含む連携のあり方について理解している。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	社会福祉の理念と概念 社会福祉と子ども家庭福祉					(1)-1)	
	2	現代社会の理解、社会福祉の歴史の変遷 少子高齢社会、家族と地域の変化					(1)-2)	
	3	社会福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関、財政					(2)-1)	
	4	社会福祉の制度と実施体系 社会福祉施設、社会福祉の専門職					(2)-1)	
	5	社会保障制度 社会保障制度の概要、医療保険、年金保険					(2)-2)	
	6	公的扶助 生活保護法の概要					(2)-2)	
	7	社会福祉における相談援助 相談援助の理論、相談援助の対象					(3)-1)	
	8	社会福祉における相談援助 相談援助の展開					(3)-2)	
	9	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法					(3)-2)	
	10	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法					(3)-2)	
	11	利用者保護 利用者の権利、情報提供、第三者評価、苦情解決					(3)-3)	
	12	社会福祉の動向 少子高齢社会の理念					(4)-1)	
	13	社会福祉の動向 共生社会と障害者福祉					(4)-1)	
	14	社会福祉の動向 地域福祉の現状、地域福祉の理念、地域住民を含む社会資源とその連携					(4)-1)	
15	社会福祉の動向 諸外国の動向、社会福祉の今後の展望					(4)-1)		
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業・ディスカッションへの参加態度(30%)							
テキスト	直島正樹、原田句哉 編著：『図解で学ぶ保育 社会福祉』(萌文書林)							
参考文献・資料	社会福祉小六法2020(ミネルヴァ書房)、保育者のための児童家庭福祉データブック2020(中央法規出版)、その他必要に応じて提示							
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。							

科目名	社会的養護 I		必修・選択	選択 (保育必修)		授業形態	講義
担当者	佐々木久仁明	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>児童の社会的養護について、児童家庭支援体系を通して児童の発達保障 (権利擁護) とその自立を支援していくことを理解し、保育士が社会的養護の中で取るべき倫理性を含む基本的な児童との関わりのある方や支援の連携、児童養護の社会的・歴史的背景を理解するとともに、その現状と課題について理解を深める。</p>						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 社会的養護の定義や理念、必要性、その仕組み及び実施体系を理解する。 1) 国、地方公共団体、児童相談所、児童福祉審議会、福祉事務所、保健所、その他の役割を理解している。 2) 児童福祉施設、里親 (ファミリーホーム含)、養子縁組制度の対象児童と機能及び役割を理解している。 (2) 子どもと家庭を取り巻く社会的状況と対応を理解する。 1) 家庭養育上の問題、非行や心身の障害を抱えた児童、児童虐待等要養護問題の発生要因とその対応について理解している。 2) 児童養護の歴史の変遷及び児童福祉の先駆者たちを学び、今日の国際諸規約・宣言に於いて児童福祉の方向について考えることができる。 (3) 社会的養護の実践とその基本的原理を理解する。(職員の仕事と専門性の理解) 1) より家庭に近い養育環境の中で日常的支援を行うことや子どもの権利擁護と自立支援の実践について理解している。 2) 入所前後から退所前後のケアの流れとその留意点、施設設備等の最低基準の理解に於いて、施設の運営管理を含む社会的養護の現状と課題について理解している。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	社会的養護とは何か。その定義、理念、体系、必要性、用語の統一 (家庭養育・家庭養護・施設養護・家庭的養護) 児童の権利擁護と国際規約・宣言。(経過・要点)					(1)-1) 2) (2)-2)
	2	権利擁護と自立支援をめざす社会的養護における保育士の仕事。社会的養護における児童観の変遷。子どもの権利意識、基本的ニーズの充足。					(3)-1)
	3	子どもと家庭を取り巻く社会変化、家庭養育力・地域子育て力の弱体、養護問題発生の増加と多様化。子ども・家族の意識変化、ライフサイクルの変化。					(2)-1)
	4	増え続ける児童虐待、通告相談件数の年次動向、児童虐待発生の要因。家庭問題、ストレス社会 児童虐待の定義と児童虐待防止法。被措置児童等の虐待防止					(1)-1) (2)-1)
	5	代理ミュンヒハウゼン症候群、心中、車中に放置、留守中の火事など様々な虐待事例。児童虐待保護者支援と家族再統合、その問題点、チェックリストの活用。(必ずしも物理的統合でなくても)					(2)-1)
	6	欧米における社会的養護の歴史、エンクロージャー、産業革命=貧困層の多出と民間や宗教による救済。児童福祉の基盤整備、救貧法と称する貧困者の管理、児童や女子は安い労働力、工場法の成立、ロバート・オーウェンの活動。					(2)-2)
	7	欧米における社会的養護の歴史(その2)、第二次大戦後の児童福祉の展開。イギリスではベヴァリッジ報告、カーティス報告、アメリカではニューディール政策と社会保障法。					(2)-2)
	8	日本における社会的養護の歴史(戦前と戦後に分けて) 様々な自然災害・社会事象と子女たち。孤児、貧児、障害児、非行児等への救済事業を行った先駆者たち。					(2)-2)
	9	戦後における法的整備の事など。主に、児童福祉法、国際条約の批准、ホスピタリズム論争と児童の養育環境の整備向上。家庭的・治療的養護。					(2)-2)
	10	社会的養護の支援体系(図) ・補完的 ・支援的 ・治療的 ・代替的 ・再構築的養護の支援 ・組織の機能 ・国 ・地方公共団体 ・児童相談所 ・児童施設 ・関係機関 ・里親					(1)-1) 2)
	11	里親制度の現状と課題。児童養護の方向～より家庭に近い養育環境の提供、地域共同 (ノーマライゼーション)、里親養育の推進。養子制度について					(1)-2)
	12	社会的養護の専門職として ・保育士 ・児童指導員 ・自立支援専門員 ・生活指導員 など。専門職とは何か及び要件 国家資格・任用資格・倫理及び責務について。					(3)-1) 2)
	13	児童虐待問題に対応するための職種として ・家庭支援専門相談員 ・心理療法担当職員 ・個別対応職員などがある。その資格要件、業務内容、ワーカビリティとは。					(2)-1) (3)-1)
	14	社会的養護の基本原則として社会的養護施設関係の運営指針にある6項目 (1) 家庭的養護の個別化 (2) 発達保障と自立支援 (3) 回復をめざした支援 (4) 家族との連携協力 (5) 継続支援と連携アプローチ (6) ライフサイクルを見通した支援					(3)-1) 2)
15	施設における養育の基本として入所前後から退所前後の中に4つのケアの流れ(アドミッション、イン、リビング、アフターの各ケア過程) 社会的養護の現状と課題、まとめ					(3)-1) 2)	
成績評価の方法	定期試験 (80%) 提出課題 (10%) 授業態度・意欲 (10%)						
テキスト	吉田眞理編著:『児童の福祉を支える社会的養護 I』(萌文書林) 『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)						
参考文献・資料	『社会福祉基本用語集』(ミネルヴァ書房) ○資料についてはその都度提示します。						
事前・事後学習	用語(特にカタカナ語)の意味を正しく覚えることが大切です。そのためにも参考文献の“用語集”などを活用して、主に事後の学習に努めてください。						

科目名	子どもの保健		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	高橋 美砂子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの心身の健康増進を図る社会的支援のあり方を考え、保育者としての態度を身につける。生命の誕生、子どもの成長発達を理解し、自己の成長の振り返りができる。子どもの病気及び事故に対して予防及び初期対応できる知識を身につけ、家族への支援ができる態度を身につける。</p>						
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動と社会的支援のあり方を理解する。 1) 小児の諸統計、現代社会の子どもの健康問題を理解し、子育て支援のあり方を考える。 2) 小児各期の健康問題を理解し、自己の健康管理について認識する。 (2) 子どもの成長発達と保健について理解する。 1) 運動機能、生理機能の発達を理解する。 2) 乳幼児健康診査、予防接種を理解する。 3) 人間性の発達課題を理解し、情緒社会性の発達を支援するかかわりを理解する。 (3) 子どもの病気及び不慮の事故への対処を理解できる。 1) 子どもの主な病気及び症状を理解できる。 2) 不慮の事故を予防する自覚をもつ。 (4) 子どもの障害や健康問題を抱える親子への関わり方を理解する。 1) 子どもの健康状態の把握、心身の不調の早期発見の視点を理解する。 2) 親子に寄り添い支援する態度を身につける。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	我が国の小児の諸統計 少子化対策					(1)-1)
	2	生命の誕生 児童虐待予防の母子保健対策					(1)-1) 2)
	3	小児期の分類と健康問題 年齢別死亡順位 子どもの不慮の事故					(1)-1) 2) (3)-2)
	4	健やか親子21 子ども・子育て支援新制度					(1)-1) 2)
	5	新生児の特徴 脳神経の発達、反射 感覚器の発達					(2)-1)
	6	精神運動機能の発達、支援 乳幼児健康診査 私の成長記録(レポート)					(2)-1) 2)
	7	生理機能の発達 呼吸、循環、血圧、血液、免疫、自律神経					(2)-1)
	8	免疫 予防接種					(2)-2)
	9	人間性の発達課題と接し方の基本 私の発達課題(レポート)					(2)-3)
	10	先天奇形、代謝異常、ダウン症候群 障害児の生活支援(DVD) 障害児を産んだ親の反応と支援					(3)-1) (4)-1) 2)
	11	血液の主な病気 闘病を支える親と兄弟姉妹への支援(DVD)					(3)-1) (4)-1) 2)
	12	けいれん性疾患 けいれん発作時の対応 腎臓の主な病気 尿路感染症予防					(3)-1) (4)-1)
	13	呼吸器の主な病気 咳発作の対処 アレルギー性疾患 アレルギー性皮膚炎予防の子どものスキンケア					(3)-1) (4)-1)
	14	先天性心疾患 児に対する園での対応 消化器の主な病気の観察視点 下痢・嘔吐の対応					(3)-1) (4)-1)
15	小児糖尿病 児に対する園での対応 甲状腺機能亢進症、低下症					(3)-1) (4)-1)	
成績評価の方法	定期試験(100%)						
テキスト	佐藤 益子：『子どもの保健』(ななみ書房)						
参考文献・資料	小西 行郎：赤ちゃん脳科学(集英社) 服部 祥子：生涯人間発達論(医学書院)						
事前・事後学習	子どもの健全な成長発達を支援できるよう、親子に寄り添う感性を深める。						

科目名	子どもの食と栄養		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)	
担当者	佐々木三津子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
授業の概要及び全体目標	<p><概要>小児栄養は身体発育や精神発達という特徴があることを知る。また、食習慣及び生活習慣の基礎が形成される大切な時期であることを理解する。各期(乳児期・幼児期・学童・思春期)の栄養と食生活の特徴を学ぶ。</p> <p><全体目標>栄養については、人の一生、ライフサイクルに沿って広く関心を持ち食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。子どもの食にかかわる担い手としての役割を学ぶ。</p>							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 栄養について基本的知識を学び実践力を高める事を目標とする。</p> <p>1) 小児期は栄養状態の適否が発育、発達に影響することを理解する。</p> <p>2) 成人期と異なる栄養と食生活の特徴を理解する。</p> <p>3) 食育に関する基本的知識を学びその大切さを理解する</p> <p>4) 調理実習を通じ適切なコミュニケーション、作業効率を考えた手順等を習得する</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	授業内容、進め方 小児期の特徴・小児期の栄養と食生活					(1)-1)	
	2	栄養の定義、栄養素について					(1)-1)	
	3	小児の食物摂取機序 栄養評価について					(1)-1) 2)	
	4	日本人の食事摂取基準(2020年版)、合理的な食生活をするための献立・調理について					(1)-1) 2)	
	5	乳汁栄養、離乳栄養について					(1)-1) 2)	
	6	幼児期栄養の特徴と必要性 栄養生理・栄養上の注意等について					(1)-1) 2)	
	7	学童・思春期における心身の発達に対して払うべき栄養上の配慮摂取上の問題点等について					(1)-1) 2)	
	8	食育の基本 小児期における食育 指導媒体について 食育の担い手として実践力に結びつける					(1)-3)	
	9	生涯発達について 家庭の食事と栄養の特徴					(1)-1) 2)	
	10	食品の選び方 食の安全性					(1)-1) 3)	
	11	集団における給食について 障害のある子どもの摂食と栄養について 食物アレルギーの食事と栄養管理について					(1)-1) 2)	
	12	疾病および体調不良時の栄養管理について					(1)-1) 2)	
	13	調理実習(1) 離乳期の献立・幼児期の間食の献立					(1)-2) 3) 4)	
	14	調理実習(2) 幼児期の献立・食育クッキング					(1)-2) 3) 4)	
15	授業のまとめ					(1)-1) 2) 3) 4)		
成績評価の方法	定期試験(85%)、調理実習評価(実習態度・意欲・協調性)(15%)							
テキスト	『新版 子どもの食生活-栄養、食育、保育-』(ななみ書房)							
参考文献・資料	授業の中で適宜紹介する。							
事前・事後学習	<p>事前・事後学習 1～12回 テキスト第2部、第3部を参照し要点を把握する。</p> <p>事前学習 13～14回 調理実習は手順、役割分担を各班で確認する。</p>							

科目名	乳児保育 I		必修・選択	選択 (保資必修)		授業形態	講義
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	乳児期が人格の基礎をつくる時期であることを理解し、一人一人の子どもの発達を保障する保育内容を理解する。乳児保育に関して基礎的な理解を深め、子どもの発達や学びの過程及び特性についても理解しようとする意欲や態度を持ち、発達に即した保育の実践力を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 乳児保育の理念・目的及び役割等について理解する。 1) 乳児保育の現状と課題を理解するとともに、その目的や役割の理解に努めようとする。 2) 乳児保育における養護および教育を理解している。 (2) 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題の理解に努めようとする。 2) 保育所・保育所以外の児童福祉施設における乳児保育の内容と運営体制について理解する。 (3) 乳児期の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 1) 乳児の生活と環境・遊びと環境の特徴をとらえ、適切な援助の仕方を習得し実践につなげる。 2) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義を理解し、実践に生かそうと努める。 (4) 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 1) 乳児保育における望ましい職員間の連携・協働を意識した保育内容の理解に努める。 2) 乳児保育における望ましい保護者との連携・協働を意識した保育内容の理解に努める。						
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号
	1	はじめに 乳児保育の制度と課題					(1)-1) 2)
	2	乳児保育の基本となる考え方 生活の主体としての乳児					(1)-1) 2)
	3	乳児を取り巻く保育の現状を学ぶ 育ちを支える乳児の周囲 (社会・保護者・保育者)					(1)-1) 2)
	4	乳児期の発育・発達 (0～1歳3か月未満) について知る 発達特徴と保育者の役割と実践との関係を知る					(1)-1) 2)
	5	乳児期の発育・発達 (0～1歳3か月未満) について知る 日常生活におけるのぞましい援助と個人差に応じた対応・離乳への移行等を学ぶ					(3)-1) 2)
	6	乳児期の発育・発達 (1歳3か月～2歳未満) について知る 安心できる環境と援助の重要性と乳児の学びの関連性を知る					(3)-1) 2)
	7	乳児期の発育・発達 (1歳3か月～2歳未満) について知る 映像資料を通して乳児の学びの実態と保育者の援助について学ぶ					(3)-1) 2)
	8	2歳児の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る。 特徴を踏まえたうえでの望ましい援助・配慮について考える					(3)-1) 2)
	9	社会環境が及ぼす乳児への影響について考察する 職員間の連携・協働の重要性を知り、乳児の安心できる環境づくりについて学ぶ					(3)-1) 2)
	10	乳児保育における時代の移り変わりを知り、乳児にとって望ましい育児文化について考察する					(1)-1) (4)-1) 2)
	11	乳児の生活を支える保育者としての役割を考察する 一人一人の理解と計画・実践・評価の重要性を知る					(1)-1) 2) (3)-1) 2)
	12	乳児期における発達の特徴をもとに日々の生活から学ぶ姿を理解する 人生における学びの基礎となる時期であることを知り対応を考察する					(3)-1) 2) (4)-1) 2)
	13	乳児期の遊びと生活を通して、計画・実践・評価との関連性を知る 乳児の病気やケガにおける対応を学ぶ (自治体や地域関係機関との連携・協働)					(2)-1) 2) (3)-1) 2)
	14	家庭との連携を通し、乳児の最善の利益を考えた関わりを考察する 保育実習における適切かつ実践的な対応を知る					(3)-1) 2) (4)-1) 2)
15	まとめとして 乳児保育を支える保育者の役割と乳児保育の今後の課題を学ぶ					(1)-1) 2) (3)-1) 2)	
成績評価の方法	レポート (50%) 演習課題 (20%)、授業参加・態度 (30%)						
テキスト	社会福祉法人あすみ福祉会「見る・考える・創りだす 乳児保育」(萌文書林)						
参考文献・資料	保育所保育新解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説						
事前・事後学習	乳児と触れ合う機会を多くもつことで乳児理解につながるのを意識して実習等を通し観察し考察に生かしてほしい。また、演習問題等に主体的に取り組み、授業に生かす姿勢が求められる。						

科目名	子どもの健康と安全		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習	
担当者	高橋 美砂子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの素因と養育環境が成長発達に影響することを理解し、日常生活養護の知識を身につけ、健全な生活習慣を育む教育的視点を持つことができる。 感染症及び不慮の事故を防ぎ、子どもの体調不良時の対応及び救急対応を理解できる。 災害時の備え危機管理の組織的取り組みを把握し、安全な保育環境理解する。</p>							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 子どもの成長発達を理解し、乳幼児の健康管理について理解する。 1) 子どもの育ち母子相互関係を理解し、自己の育児観を養う。 2) 成長発達を評価する健康管理の視点を理解する。 (2) 子どもの健全な生活習慣となる養護の知識を理解する。 1) 子どもの生理機能の発達に合わせた生活習慣を理解する。 2) 乳幼児の日常生活養護の技術を身につけ、養護の知識を理解する。 (3) 子どもの体調不良時の対応を理解し感染症及び不慮の事故を防ぐ安全な保育環境を理解する。 1) 体調不良時の対応及び感染予防対策を理解する。 2) 事故への対応を理解し、応急処置ができる。 3) 不慮の事故を防ぐ安全への配慮を意識する。 4) 危機管理、災害対策について理解する。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	子どもとは 保育士の役割 赤ちゃんからのメッセージ(DVD)(レポート)					(1)-1)	
	2	小児の成長発達の原則 発育評価 身体計測					(1)-2)	
	3	小児の睡眠 保育所での午睡の意義 保育中の午睡中の事故防止 乳幼児突然死症候群の予防対策					(2)-1) 2) (3)-1)	
	4	病児保育 保育所における感染予防対策ガイドライン 手洗い うがい 乳歯の虫歯予防 歯磨き					(2)-1) 2) (3)-1)	
	5	育児マニュアル 新生児の育児(DVD) おむつ交換 抱き方					(1)-1) (2)-2)	
	6	母乳栄養 卒乳 調乳 授乳方法					(2)-1) 2)	
	7	幼児の保育(DVD) 抱っこ おんぶ 子どもの服の選び方 靴の選び方					(2)-1) 2) (3)-3)	
	8	沐浴					(2)-1) 2) (3)-3)	
	9	排泄の自立 夜尿症 水分代謝 子どもの体温 低体温予防 体温測定					(2)-1) 2)	
	10	子どもの病気の理解 病児のケア 発熱と発疹の主な病気					(3)-1)	
	11	保育所での薬の取り扱い 子どもの与薬方法 浣腸					(3)-1)	
	12	乳幼児の泣き 誤飲 食物アレルギー 保育所におけるアレルギーガイドライン					(3)-1) 2)	
	13	子どもの救急対応 包帯法 罨法					(3)-2) 3)	
	14	災害への備え 危機管理 保育所における事故防止ガイドライン 災害時の子どもと家族への対応					(3)-3) 4)	
15	子どもの救急救命 心肺蘇生法・AEDの実技 気道異物の除去 (秋田市消防本部救急隊救命士による指導)					(3)-2) 3)		
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業態度(20%)							
テキスト	大西 文子編：『子どもの健康と安全』(中山書店)							
参考文献・資料	山本 恵子監：写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 五十嵐 隆：目でみる小児救急(文光堂)							
事前・事後学習	日常生活養護の演習で、安全への配慮ができ、自己の日常生活力を身につける。 自己の育児観を振り返り、保育者としての使命感を養う。							

2 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	門戸 美智	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
授業の概要及び全体目標	新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育する」ことを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通して人を大切にする生き方を学び、人類社会に貢献する生き方を理解する。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) イエス・キリストの生き方と教えを理解する 1) イエス・キリストの生涯を捉えながらその歴史を理解している 2) イエス・キリストの生き方の中から、その教えと課題を理解している (2) 新約聖書の生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解する 1) 新約聖書について知り、描かれている人物の背景、生き方を理解している 2) 新約聖書の時代と文化を通して、今の時代をどう生きるか理解している (3) 保育者として人類・社会に貢献する基礎的態を理解する 1) 人類・社会に貢献するためにキリストが教える生き方を理解している。 2) 保育者としてキリスト教的価値観を実践し世界平和の在り方を理解している							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション 新約聖書と本学の建学の精神					(1)-1) 2),(2)-1) 2)	
	2	イエスの告げた福音 喜びの知らせ マルコ 1 : 1					(1)-1) 2) (2)-1)	
	3	イエスの荒野での試み マタイ 4 : 1 ~ 11					(1)-1) 2)	
	4	イエスの弟子 弟子の選び マタイ 4 : 18 ~ 32					(1)-1) 2)	
	5	イエスの弟子 弟子たちの使命 マタイ 10 : 1 ~ 4					(1)-1) 2)	
	6	イエスの教え 山上の垂訓 マタイ 5 : 1 ~ 10					(1)-1) 2)	
	7	イエスの教え 敵を愛せよ ルカ 6 : 27 ~ 36					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	8	イエスの教え 人を裁くな マタイ 7 : 1 ~ 5					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	9	イエスのたとえ話 よいサマリア人 ルカ 10 : 25 ~ 37					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	10	イエスのたとえ話 金持ちとラザロ ルカ 16 : 19 ~ 33					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	11	み心の「ミサ」					(3)-1) 2)	
	12	み心のミサと講演					(3)-1) 2)	
	13	イエスのたとえ話 種まきのたとえ ルカ 8 : 4 ~ 15					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	14	イエスのたとえ話 ぶどう園の労働者 マタイ 20 : 1 ~ 16					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	15	祈りについて 主の祈り ルカ 11 : 1 ~ 4					(3)-1) 2)	
	16	愛とゆるし 見失った羊 ルカ 15 : 4 ~ 7					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	17	愛とゆるし 放蕩息子 ルカ 15 : 1 ~ 32					(2)-1) 2),(3)-1) 2)	
	18	イエスの奇跡 重い皮膚病患者のいやし マルコ 1 : 40 ~ 45					(1)-1) 2),(3)-1)	
	19	エリコの盲人いやされる マルコ 10 : 46 ~ 52					(1)-1) 2),(3)-1)	
	20	ヤイロの娘と出血病の女 マルコ 5 : 21 ~ 43					(1)-1) 2),(3)-1)	
	21	ユダの裏切り マタイ 26 : 14 ~ 16					(1)-1) 2)	
	22	待降節について知る					(3)-1) 2)	
	23	クリスマスミサに参加					(3)-1) 2)	
	24	イエス弟子たちの足を洗う ヨハネ 13 : 1 ~ 20					(3)-1) 2)	
	25	聖体の制定 マタイ 26 : 26 ~ 29					(2)-1) 2)	
	26	ゲッセマネでの祈り マタイ 26 : 30 ~ 35					(2)-1) 2)	
	27	ペトロの否み マタイ 26 : 30 ~ 35					(2)-1) 2)	
	28	十字架の刑 犯罪人の赦し 十字架上のイエスの言葉 ルカ 23 章					(2)-1) 2)	
	29	エマオの途上での出現 ルカ 24 : 13 ~ 35					(2)-1) 2)	
	30	教会の誕生 使徒言行録 2 : 42 ~ 47 パウロの回心					(1)-2),(3)-1) 2)	
成績評価の方法	試験 (30%)、提出課題 (30%)、授業態度・意欲 (20%)、聖園アワー・感想 (20%)							
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ：『ここにひかりを』(ドン・ボスコ)							
参考文献・資料	百瀬文明晃著：『キリストを知るために』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『喜びの光を』(ドン・ボスコ)							
事前・事後学習	授業で使用する新約聖書の箇所を読んでおき、授業後もう一度同じ箇所を読んで自分の生活を振り返り考察する。							

科目名	日本語の表現Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	社会人・保育者として実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付けることを目指す。また、国語の知識や技能の向上のため、課題の発見、解決を図る態度を身に付けることを目指す。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 国語について理解を深め、適切な表現を用いた言語活動することができるようにする 1) 表記・文法・敬語などの国語の基礎的知識を身に付け、適切に表現できる 2) 場にふさわしい表現方法や技術を工夫し、適切かつ効果的に表現できる 3) 自分の考えやイメージを言葉や文章で適切に表現できる (2) 自己の課題発見、解決を図ることができるようにする 1) 自己の国語の知識や技能を向上させるために、課題の発見・解決を図ることができる 2) 他者との関わりの中で表現や意見を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる (3) 絵本というメディアの特徴を理解し、活用できるようにする 1) 絵本の機能と表現効果を理解し、活用できる 2) 絵本モンタージュ理論を理解し、読解と表現に生かすことができる							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション —授業目標・内容・評価方法の説明、短作文					(2)-1)	
	2	国語力トレーニング1 —正しい日本語の表記・文法					(1)-1) 2) (2)-1)	
	3	国語力トレーニング2 —敬語表現の基本					(1)-1) 2) (2)-1)	
	4	国語力トレーニング3 —場に応じた敬語表現					(1)-1) 2) (2)-1)	
	5	国語力トレーニング4 —総合演習・解説					(1)-1) 2) (2)-1)	
	6	国語力トレーニング5 —総合演習2・解説					(1)-1) 2) (2)-1)	
	7	絵本モンタージュ 基礎 —絵本モンタージュ理論について 「おべんとう絵本」の作り方					(3)-1)	
	8	絵本モンタージュ 基礎 —「おべんとう絵本」制作					(1)-1)2)3) (3)-1)2)	
	9	絵本モンタージュ 基礎 —「おべんとう絵本」鑑賞・合評会					(2)-2)	
	10	就職作文・小論文 —注意事項・作成1					(1)-1) 2) 3) (2)-1)	
	11	就職作文・小論文 —作成2					(1)-1) 2) 3) (2)-1)	
	12	絵本モンタージュ 応用1 —安野光雅『旅の絵本』の物語を作る グループ決め、テキスト作成1					全項目	
	13	絵本モンタージュ 応用2 —テキスト作成2					全項目	
	14	『旅の絵本』合評会1					全項目	
15	『旅の絵本』合評会2 まとめ					全項目		
成績評価の方法		定期試験(40%)、提出課題(50%)、作成や発表への参加態度・意欲(10%)						
テキスト		授業各回で配布する						
参考文献・資料		授業各回で提示や紹介をする						
事前・事後学習		事前に資料を配布するので、目を通すまたは演習するなどして取り組んでおくこと。 講義内容をノートなどにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。						

科目名	児童文学		必修・選択	選択必修		授業形態	講義	
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	多くの児童文化財を生み出した児童文学について学び、時代による児童文学作品の変容、各ジャンルの特徴など専門的事項に関する知識を身につける。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 児童文学の歴史を理解できる 1) 近代以降の日本の児童文学作品とそこに表れた時代性を考察できる 2) 児童文学作品に表れた子ども観を考察できる (2) さまざまなジャンル・作家の特徴を理解できる 1) 児童文化財(児童文学作品)について、基礎的な知識を身につけることができる 2) 作家や作品について分析、考察ができる							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション —児童文学とは 絵本分析					(2)-1) 2)	
	2	児童文学の歴史と作品1 —江戸以前と明治					全項目	
	3	児童文学の歴史と作品2 —大正1					全項目	
	4	児童文学の歴史と作品3 —大正2					全項目	
	5	児童文学の歴史と作品4 —昭和1					全項目	
	6	児童文学の歴史と作品5 —昭和2					全項目	
	7	児童文学の歴史と作品6 —現代					全項目	
	8	昔話の世界1 —昔話の構造					(1)-2) (2)-1) 2)	
	9	昔話の世界2 —昔話絵本					(1)-2) (2)-1) 2)	
	10	作品・作家・テーマ研究について					(2)-1) 2)	
	11	グループ研究1 —作品・作家について調べて話し合う					(2)-1) 2)	
	12	グループ研究2 —資料作り、発表準備1					(2)-1) 2)	
	13	グループ研究3 —資料作り、発表準備2					(2)-1) 2)	
	14	グループ研究発表会					(2)-1) 2)	
15	海外の作品 —翻訳絵本					(1)-2) (2)-1) 2)		
成績評価の方法	レポート(20%)、提出課題(40%)、研究発表(20%)、ディスカッションへの参加態度・(20%)							
テキスト	授業各回で配布する							
参考文献・資料	授業各回で提示や紹介をする							
事前・事後学習	事前に資料を配付するか、または読んできて欲しい作品を指定するので、読んで授業に臨むこと。講義内容をノートにまとめ、事後の研究に役立てること							

科目名	数論		必修・選択	選択必修		授業形態	講義	
担当者	小林 真人	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	身近な数理現象について注意を喚起し、理解する。簡単な解説に続いて行う受講生による手作業、グループ作業や発表を通して、数や図形に関心を高め、論理的な思考力を養う。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 身近なできごとに数理関係が働いていることを理解する 1) 身近にある数理関係の具体例を複数あげて、それを簡単な数式やグラフを用いて説明できる 2) 身近な現象から数理関係を見出すことができる 3) 数式を理解して、目的に適った簡単な作業が行える (2) 数や図形を新しい切り口で見つめることに関心を持つ 1) 授業で得た新たな切り口を説明できる 2) その切り口に対する印象を、具体例をあげて述べられ							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	平均と釣り合いの関係を、簡単な実験を通して体感する					(1)-2) (2)-2)	
	2	平均と釣り合いの関係を、数式を用いて理解する					(1)-3) (2)-1) 2)	
	3	ヒストグラムという統計グラフを紹介し、どのような傾向が読み取れるかを考える					(1)-1) 2) 3) (2)-2)	
	4	ヒストグラムから平均を読み取る方法を理解し、グループで実行する					(1)-1) (2)-2)	
	5	サインウェーブという曲線を紹介し、身近に探す					(1)-1) 2) (2)-2)	
	6	サインウェーブを作図する					(1)-2) 3) 2) (2)-2)	
	7	文字コード、ファイルサイズ、コード体系、必要なコードの数を理解する					(1)-2) 3) (2)-1) 2)	
	8	可変長コード、誤読を起こさない工夫を理解し、暗号文を作りやり取りする					(1)-1) 3) (2)-1) 2)	
	9	分数を星状の線で表現し、図を用いて足し算をする					(1)-1) 3) (2)-2)	
	10	バイパス路のない線図形に秘められた数量関係を発見し、証明(確認)する					(1)-2) 3) (2)-2)	
	11	一般の線図形に秘められた数量関係を発見し、証明(確認)する					(1)-2) 3) (2)-2)	
	12	塗り絵に秘められた数量関係を発見して体感する					(1)-2) 3) (2)-2)	
	13	塗り絵を最小の色数で完成させるときに現れる数量関係を発見して体感する					(1)-2) 3) (2)-1) 2)	
	14	ウェーブのブレンド作業を行う					(1)-3) (2)-2)	
15	ウェーブのブレンド作業を応用して、花模様を作成する					(1)-2) 3) (2)-1) 2)		
成績評価の方法	試験(40%), レポート(30%), 授業態度, 意欲(30%)							
テキスト	特に使用しない							
参考文献・資料	必要な資料は講義の際に渡す							
事前・事後学習	授業後に、不思議さや発見の感動を再体験して確かなものとする							

科目名	生活科の研究		必修・選択	選択必修		授業形態	講義	
担当者	永井 博敏	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	(1) 幼児教育と小学校教育との連続性・一貫性を生かした教育活動の必要性や意義を理解する。 (2) スタート・カリキュラムや小学校生活科の意義や目的、内容、指導計画等についての基礎的事項を理解する。 (3) 具体的な地域探索活動や栽培活動、制作・表現活動などの体験を通して小学校生活科の特質を理解する。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 幼児期の発達特性を生かした教育課程の重要性に基づいて、幼児教育の位置づけや小学校低学年教育の特徴をとらえようとする。 1) 幼児期の発達特性を生かす教育課程や教育の連続性についての課題意識をもつ。 2) 小学校生活科に関する事項や保育との関連についての関心や体験活動への意欲をもつ。 (2) 生活科の意義や目的、内容、指導計画等についての基礎的知識や技能を修得する。 1) 生活科誕生の背景や生活科の目標・内容・指導計画等に関する基本的な事項の説明ができる。 2) 生活科で扱われる内容に関する具体的な活動を体験し、教科の特質を考察することができる。 (3) 生活科の特質に関連する課題解決や体験等の活動を行い、考察や成果を的確な方法で表現する。 1) 生活科の特質と日常生活や興味関心との関連について考察し、所見にまとめることができる。 2) 生活科との関連の視点から、幼児期に育てたい子どもの資質・能力、及び保育者の役割について保育関連科目での学びと関連付けて考察し、所見を述べるができる。 3) 体験活動(地域探索・栽培・製作表現)の成果を多様な表現方法で可視化することができる。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション(保育者養成校で、なぜ「小学校生活科」を学ぶのか?) 小学校の教育課程の概要					(1)-1) 2)	
	2	生活科誕生の背景 ～子どもの視座に立つ低学年教育への一大転換～ 低学年児童の発達特性を生かした学習指導の必要性					(1)-1) 2) (2)-1)	
	3	「ジャガイモのプランター栽培活動しよう」1 屋外活動 プランター栽培「土づくりと種イモの準備、植え付け作業」を行う					(1)-2) (2)-2)	
	4	生活科の教科目標の構造的理解 ～「学習指導要領解説編」から読み解く～					(1)-1) (2)-1)	
	5	生活科の内容構成の考え方と内容9項目のあらまし (演習)1項目を事例にした「内容の構造分析表」の作成					(2)-1)	
	6	幼児教育と小学校教育との連携 「幼児期の終わりまでに育てたい姿」との関連 ～特に「思考力の芽生え」について～					(1)-1) 2) (3)-2)	
	7	「ジャガイモのプランター栽培活動しよう」2 屋外活動 プランター栽培「芽欠き、土増し、追肥、支柱立て」を行う					(1)-2), (2)-2) (3)-3)	
	8	生活科の実践活動「通り町商店街の街たんけん」1《地域体験活動》 現地活動 通り町商店街の探索から各種安全施設や商店街の各種販売促進策を見つける					(2)-2) (3)-1) 2)	
	9	生活科の実践活動「通り町商店街の街たんけん」2《表現活動》 探索活動「街たんけん」での気づきをマップや報告書など、多様な方法で表現する					(3)-1) 2) 3)	
	10	生活科の実践活動「通り町商店街の街たんけん」3《表現活動》 「街たんけん報告書」の作品展示コンクールを行う。					(3)-1) 2) 3)	
	11	幼・小関連の活動「身近な日用品を使ったおもちゃ作り」1《製作・表現》 牛乳パックや輪ゴムなどを使った幼児用「うごくおもちゃ」の製作・実演					(1)-2), (2)-2) (3)-3)	
	12	幼・小関連の活動「身近な日用品を使ったおもちゃ作り」2《製作・表現》 紙コップと輪ゴムによる児童用「一弦ギター」の製作と童謡の演奏・発表					(1)-2), (2)-2) (3)-3)	
	13	「ジャガイモのプランター栽培活動しよう」3 屋外活動 プランター栽培「ジャガイモ収穫と後片付け作業」を行う					(1)-2), (2)-2) (3)-3)	
	14	生活科の実践活動「“マイ・ポテト”の調理をして味わおう」～栽培活動の一環として～ 自分で育てて収穫したジャガイモを使って簡単な調理をし、味わってみる、					(1)-2), (2)-2) (3)-3)	
15	幼児教育と小学校教育との連続性を生かした教育の在り方についての所見や体験を通して獲得した知見や技能、意欲についての自己評価をレポート形式で表現する					(1)-1) (3)-1) 2)		
成績評価の方法	試験(30%)、レポート・作品(30%)、授業態度・意欲(20%)、体験活動の状況(20%)							
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説(生活編)」 東洋館出版 その他は自作資料による							
参考文献・資料	特定せず その都度、図書館蔵書等から紹介する							
事前・事後学習	探索・製作・表現・栽培など生活科の特徴的な学習活動を受講生が自ら体験するアクティブな学習活動を随所に挟んで展開する。その場合は授業時間以外の事前・事後の活動が不可欠である。あらかじめ課題発見や課題設定のために調査をするなど事前の学習をし、事後には検証的な活動を追加して課題解決を果たすなど、主体的に学習に取り組むことが望まれる。							

科目名	音楽Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	櫻庭 優佳	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・通年	
授業の概要及び全体目標	より豊かな歌声を目指し自身の発声に向き合ったり、歌詞の解釈を深めたりすることを通して、保育者は子どもの前で自信をもって歌唱できるようになる。子どもたちの音楽活動を適切に援助し、音楽の喜びや楽しさを伝えることができるよう、より高い歌唱技能を身に付ける。また、「子どもの歌」を中心とした総合的な音楽表現等の発表に取り組み、現場で生きる実践的な音楽活動の展開について考察し理解を深める。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1)「子どもの歌」を中心とした独唱や少人数アンサンブル等の歌唱ができる 1) 明瞭で美しい日本語の発音に留意して歌唱することができる 2) 歌唱にとっての良い姿勢を理解し、歌唱することができる 3) 無理のないのびやかな発声を常に目指しながら歌唱することができる 4) リズム・メロディー・ハーモニーを理解し、より正確な歌唱を心がけている (2) 子どもの心に響く歌唱とは何か、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる 1) 子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、楽しく演奏しようと心がけている 2) 音楽の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えて歌唱することができる 3) 歌や音楽が子どもの心に働きかける内容・意味を理解し、喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	「子どもの歌」のグループ発表① 6人程度のグループで「子どもの歌」を選曲し、導入の仕方や展開を考える					(2)-2) 3)	
	2	「子どもの歌」のグループ発表② 楽譜をよく読み取り、音楽の特徴を捉え、解釈を深める					(2)-2) 3)	
	3	「子どもの歌」のグループ発表③ 明瞭な発音やわかりやすい伝わり方を目指し、グループ練習や個人練習を行う					(1)-1), (2)-2) 3)	
	4	「子どもの歌」のグループ発表④ グループ毎に、表現に必要な制作などを進める					(2)-2) 3)	
	5	「子どもの歌」のグループ発表⑤ 発表に向けて、グループ毎に制作したものを使いながらの練習を行う					(2)-2) 3)	
	6	「子どもの歌」のグループ発表⑥ 発表に向けて、グループ毎にリハーサルを行い、改善点を加える					(1)-1), (2)-1) 2) 3)	
	7	「子どもの歌」のグループ発表⑦ 発表を行い、互いの発表から学び合う					全項目	
	8	ミサ曲・聖歌(1) み心のミサに向けて、聖歌練習を行い、美しいハーモニーを作り出そうと努める					(1)-1) 2) 3) 4)	
	9	「子どもの歌」の弾き歌い・歌の練習① 器楽Ⅱ(ピアノ)の弾き歌い試験に向けて、各自の試験曲について歌の練習を行う					(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1)	
	10	「子どもの歌」の弾き歌い・歌の練習② 器楽Ⅱ(ピアノ)の弾き歌い試験に向けて、各自の試験曲について歌の練習を行う					(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1)	
	11	「子どもの歌」の個人発表① 子どもの心に働きかける歌を各自選曲し、導入の仕方や展開を考える					(2)-2) 3)	
	12	「子どもの歌」の個人発表② 楽譜をよく読み取り、音楽の特徴を捉え、表現に合った制作を進める					(2)-2) 3)	
	13	「子どもの歌」の個人発表③ 制作したものをを使いながら、発表に向けて各自練習を深める					(2)-1) 2) 3)	
	14	「子どもの歌」の個人発表④ 発表を行い、互いの発表から学び合う					全項目	
	15	「子どもの歌」の合唱① 各パートの音取りをし、演奏できるようになる					(1)-4)	
	16	「子どもの歌」の合唱② 必要に応じてパート練習をしながらより良いハーモニーを作る					(1)-2) 3) 4)	
	17	「子どもの歌」の合唱③ 子どもの心に働きかけるような、曲に合った工夫を加える					(1)-1) 2) 3) 4), (2)-2)	
	18	「子どもの歌」の合唱④ 合唱の喜びを十分に感じながら、子どもにも伝わる演奏を目指し、練習を深める					全項目	
	19	クリスマスの発表① 10人程度のグループ毎に子どもと楽しめるクリスマスの発表を考える					(2)-3)	
	20	クリスマスの発表② 選んだ作品の分析や解釈を深め、内容に合う表現の工夫を考える					(2)-2) 3)	
	21	クリスマスの発表③ グループ毎に練習や制作を行う					(2)-1) 2) 3)	
	22	クリスマスの発表④ グループ毎の練習を深め、改善点を加える					(2)-1) 2) 3)	
	23	クリスマスの発表⑤ 発表を行い、互いの発表から学び合う					全項目	
	24	ミサ曲・聖歌(2) クリスマスマサに向けて聖歌練習を行い、美しいハーモニーを作り出そうと努める					(1)-1) 2) 3) 4)	
	25	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～① 子どもの心に働きかける歌を各自選曲し、楽譜を準備する					(2)-3)	
	26	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～② 選曲した曲について作品分析を行い、音楽的なポイントを押さえる					(2)-2) 3)	
	27	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～③ 言葉の意味一つ一つに留意し、詩の解釈が深まるよう考察する					(2)-3)	
	28	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～④ 美しい日本語の発音や解釈が伝わるよう、練習を深める					(1)-1), (2)-3)	
	29	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～⑤ 子どもの心に届くような独唱ができるよう更に練習を進める。また、解釈等を記入した楽譜を提出し、次回の発表に備える					(2)-1) 2) 3)	
30	「子どもの歌」の独唱～子どもの心をつかむ歌～⑥ 「音楽」のまとめとして、独唱の発表を行い、互いの演奏から学び合う					全項目		
成績評価の方法	発表(授業内での演奏発表) 40%、提出課題 10% 授業態度・意欲(授業内でのグループ練習や個人練習における参加態度など) 50%							
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」							
参考文献・資料	その都度、提示や紹介、配布をする							
事前・事後学習	より豊かな声で自信をもって歌唱できるよう、意欲的な姿勢で取り組むこと。授業で学習する曲について、事前の譜読みや授業後の復習を積極的に行ってほしい。また、音程やリズム、発声について疑問や不安に思うことはその都度質問をし、練習に生かすこと。							

科目名	器楽Ⅱ（ピアノ）		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	東海林美代子 他8名	担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	2年・通年	
授業の概要及び全体目標	<p>幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。 子どもの歌の弾き歌いを表情豊かにできるようにする。 1時間に4～5名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。 入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、4名程度のグループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。</p>							
一般目標（No.）及び到達目標（No.）	<p>(1) 幼児教育者として必要なピアノの基礎的な演奏技術を習得する 1) テキスト中の「バイエル練習曲」や他の楽曲に取り組み、音名や運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる (2) 音楽に対する感性を磨き、表現力を高める 1) 他者の演奏を聴くことにより、楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする (3) 子どもの歌の弾き歌いを表情豊かにできる 1) テキスト中の「子どもの歌」について曲想を理解し、ピアノ演奏ができ、表情豊かに弾き歌いができる</p> <p>※ピアノ経験の有無や個々の進度・能力に応じたレッスン形式で行うため、授業内容は個人により進め方等が異なる場合がある。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	テキストSTEP 3のピアノ練習曲に取り組み 引き続きテキストSTEP 2の弾き歌い曲に取り組み					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	2	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	3	同上 表情豊かにはっきりと歌うことを意識して取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	4	同上 歌を引き立てるピアノ伴奏を意識して取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	5	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	6	同上 子どもに語りかけるような弾き歌いになるよう意識して取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	7	同上 STEP 2終了後は弾き歌い曲もSTEP 3に進む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	8	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	9	同上 個々の進度を考慮し前期試験曲を指導担当者との話し合いにより選曲する					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	10	前期試験曲と合わせてピアノ練習曲にも引き続き取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	11	同上 楽曲の特徴や曲想を感じ取り、表情豊かに暗譜で演奏できるようにする					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	12	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	13	前期試験（クラス単位で行う。クラス全員の前で弾き歌い曲1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする。）					(2)-1, (3)-1	
	14	前期試験結果と夏休み期間の課題について 就職試験も念頭に置いて引き続き楽曲に取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	15	テキストSTEP 3のピアノ練習曲や弾き歌い曲に取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	16	同上 テキストのピアノ練習曲を終了した場合には、指導担当者の判断により「ギロック 子どものためのアルバム」「アルグミュラー-25の練習曲」等を使用する					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	17	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	18	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	19	同上 就職に向けてピアノ・弾き歌いともに演奏技術を向上させる					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	20	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	21	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	22	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	23	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	24	同上 指導担当者との話し合いにより後期試験曲（ピアノ曲）を選曲する					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	25	後期試験曲と合わせて弾き歌い曲にも引き続き取り組む					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	26	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	27	同上					(1)-1, (2)-1, (3)-1	
	28	同上 楽曲の特徴や曲想を感じ取り、表情豊かに暗譜で演奏できるようにする					(1)-1, (2)-1	
	29	同上					(1)-1, (2)-1	
30	後期試験（クラス単位で行う。クラス全員の前でピアノ曲1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする。）					(1)-1, (2)-1		
成績評価の方法	実技試験（50％）、授業参加態度・意欲（50％）							
テキスト	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社） 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する							
参考文献・資料	『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）							
事前・事後学習	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。							

科目名	幼児造形Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	菊地 眞樹子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	<p>○造形表現活動を通して、知識・技能を身につけ、美術を愛好する心情を深める。</p> <p>○幼児の造形表現を理解し、よりよい支援についての知識を得て、実践への意欲を高める。</p>							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 造形表現活動に意欲的に取り組み、自分なりに構想を練り、よりよい表現を求めて制作することができる。</p> <p>1) 様々な題材に意欲的に取り組み、表現活動を楽しむ。</p> <p>2) よさや美しさ、楽しさを求めて、自分なりに発想・構想をする。</p> <p>3) 材料や用具の扱い方に慣れ、表現の幅を広げる。</p> <p>(2) 幼児の造形活動を理解し、具体的な支援のあり方を、体験を通して学ぶことができる。</p> <p>1) 幼児が造形活動をしながら身につけている能力に関心を持つ。</p> <p>2) 造形活動を支援する保育者の役割を、具体的に考える。</p> <p>3) 幼児の美的完成を高める環境について考えを深める。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	ガイダンス 色鉛筆の多様な表現					(1)-3)	
	2	色鉛筆で描く「食べたいお料理大集合」					(1)-1) 2) 3)	
	3	布を使ったコラージュ					(1)-1) 2) 3) (2)-2)	
	4	土粘土による造形					(1)-3) (2)-1) 2)	
	5	スタンピング(スチレン版画など)					(1)-1) 2) 3) (2)-2)	
	6	お面の制作(紙で作る簡易なもの)					(1)-1) 3) (2)-2) 3)	
	7	幼児の表現活動について					(2)-1) 2)	
	8	クリスマスの掲示物①					(1)-1) 2) 3) (2)-3)	
	9	クリスマスの掲示物②					(1)-1) 2) 3) (2)-3)	
	10	新聞紙の活用					(2)-1) 2)	
	11	アルミはくの活用					(2)-1) 2)	
	12	廃材を使った動くおもちゃ					(2)-1) 2)	
	13	ひな祭りの造形活動①					(1)-1) 2) 3) (2)-2) 3)	
	14	ひな祭りの造形活動②					(1)-1) 2) 3) (2)-2) 3)	
15	幼稚園教育要領、保育所保育指針について					(2)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	提出課題(50%) 授業態度・意欲(50%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	槇 英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林) 樋口 一成『幼児造形の基礎』(萌文書林)							
事前・事後学習	子供の絵や工作、いろいろな材料や道具に、日頃から関心を寄せる。							

科目名	幼児体育		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児に適した様々な運動あそびを経験することで、その重要性や意義を理解する。 ・ 集団遊びを通して、コミュニケーション能力をみがく。 ・ あそびを実際に経験することで、そのバリエーションを広げる術を知る。 							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼児のための運動あそびの重要性や意義についての知識を習得することができる。</p> <p>1) 実際にあそび体験し、その楽しみや魅力を理解することができる。</p> <p>2) あそびを理解し、指導法を身につけることができる。</p> <p>3) 集団の一員としての関わりを持つことで社会性を養うことができる。</p> <p>(2) 日常的な自分自身の体力強化について意識することができる。</p> <p>1) 幼児向けにあそびに、積極的に取り組むことができる。</p> <p>2) 既存のあそびからバリエーションを広げていく術を習得することができる。</p>							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション					(1)-1) 2) 3)	
	2	運動あそびの理論と実際 1 運動あそびの意義					(1)-1) 2) 3)	
	3	運動あそびの理論と実際 2 運動あそびと子どもの発達について					(1)-1) 2) 3)	
	4	創作ダンス 1 パフォーマンスの考え方					(1)-3) (2)-1) 2)	
	5	創作ダンス 2 グループ制作					(1)-3) (2)-1) 2)	
	6	創作ダンスの細かな部分の修正					(1)-3) (2)-1) 2)	
	7	創作ダンスの発表、意見交換					(1)-3) (2)-1) 2)	
	8	創作ダンス まとめ					(1)-1) 2) (2)-1)	
	9	運動あそびの指導法 1 運動あそびと事故の関連性					(1)-1) 2) (2)-1)	
	10	運動あそびの指導法 2 運動あそびと環境について					(1)-1) 2) (2)-1)	
	11	運動あそびの指導法 3 運動嫌いな子供について考える					(1)-1) 2) (2)-1)	
	12	あそびの作り方 1 年齢にあったあそびの作り方					(1)-1) 2) (2)-1)	
	13	あそびの作り方 2 四季折々のあそびについて					(1)-1) 2) (2)-1)	
	14	あそびの作り方 3 環境作りを考える					(1)-1) 2) (2)-1)	
15	まとめ					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)		
成績評価の方法	提出課題 (30%)、実技発表 (30%)、授業態度・意欲 (40%)							
テキスト	なし							
参考文献・資料	なし							
事前・事後学習	日々、遊びに対して広い視野を持って情報を吸収し情報を得る。							

科目名	保育内容の指導法 健康		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。事例に触れる中で、保育者のかかわり方や環境構成、運動遊びなど実践的な学びを取り入れる。そこから乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	(1) 幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体の構造を理解している。 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼児教育における領域や評価の考え方を理解している。 4) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。						
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号
	1	授業オリエンテーション - 幼児教育の基本 - 幼児教育の根幹／育みたい資質・能力／幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					(1)-1), (1)-2) (1)-4)
	2	- 幼児教育の基本 - 環境を通しての教育と保育者のさまざまな役割 遊びを通しての総合的な指導					(2)-1), (2)-4) (2)-5)
	3	- 子どもの育ちと領域「健康」 - 乳幼児期を通しての運動能力の発達 情緒の安定					(1)-2), (1)-3) (2)-2), (2)-3)
	4	- 子どもの育ちと領域「健康」 - 生活習慣の形成 子どもの発達と事故					(1)-2), (1)-3) (2)-2), (2)-3)
	5	- 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 - 最近の子どもたちの特徴 運動能力にみる現状と子どもの心身の変化					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-5)
	6	- 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 - 運動能力を低下させた原因 「健康」を支える集団保育					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-5)
	7	- 子どもの健康と遊び - 幼児・1～2歳児の遊び ルールのある遊び 遊具を使った遊び					(1)-3), (1)-4) (2)-1), (2)-5)
	8	- 子どもの健康と遊び - さまざまなあそび 子どもの興味を引き出す環境の構成					(1)-3), (1)-4) (2)-1), (2)-5)
	9	- 園生活と生活習慣 - 園生活のなかで育む生活習慣 園生活と食 園生活と睡眠					(1)-1), (1)-2) (1)-4), (2)-1)
	10	- 園生活と生活習慣 - 園環境と当番活動 生活習慣を育む保育者の役割 生活習慣と家庭との連携					(1)-1), (1)-2) (1)-4), (2)-1)
	11	- 子どもの健康と安全教育 - 安全教育の考え方 遊びの中で育む安全の意識					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	12	- 子どもの健康と安全教育 - 計画的な指導によって育む安全の意識 事故が起きた場合の対応					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	13	- 幼児教育の現代的課題と領域「健康」 - 「健康」の現代社会における今日的課題					(1)-3), (1)-4) (2)-5)
	14	- 幼児教育の現代的課題と領域「健康」 - 「健康」と保育者の役割 生涯発達のなかで「健康」に関する学びを捉える					(1)-3), (1)-4) (2)-5)
15	まとめ 幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健やかな心と体を育む保育					(1)-3), (1)-4) (2)-1), (2)-5)	
成績評価の方法	試験 (60%)、演習課題 (20%)、授業態度・意欲 (20%)						
テキスト	無藤隆ほか「事例で学ぶ」 保育内容 領域「健康」(萌文書林)						
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育用語辞典』						
事前・事後学習	事前：テキスト・要領・指針を事前に読んだうえで参加する。 事後：授業内で配布した資料への書き込みとレポート課題を通して復習し、次回に備える。						

科目名	保育内容の指導法 環境		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	子どもを取り巻く環境について学び、乳幼児期にふさわしい環境を考えることができるようになることや、「環境による保育」と領域「環境」の違いを理解し、子どもが環境に関わって遊ぶことの重要性を理解することをねらいとする。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。 2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解する。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 2) 領域「環境」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	領域「環境」の意義 子どもが環境と関わることの重要性					(1)-1)	
	2	保育と「環境」 領域「環境」のねらいと内容					(1)-1)	
	3	子どもの育ちと領域「環境」 乳幼児期の特性を踏まえた環境					(1)-1) 2)	
	4	子どもを取り巻く物的環境 I 遊びや生活の中の物・道具 物の性質と仕組み					(1)-1) 2) 4)	
	5	子どもを取り巻く物的環境 II 数量や図形、文字や標識との関わり					(1)-2) (2)-1) 4) 5)	
	6	子どもを取り巻く自然環境 I 身近な自然への関わり (季節、植物、動物、昆虫)					(1)-2) (2)-1) 4) 5)	
	7	子どもを取り巻く文化的環境 文化財への関わり (絵本・紙芝居・施設)					(1)-2) (2)-1) 5)	
	8	子どもを取り巻く人的環境 友だちの存在、保育者の役割					(1)-1) 2) 3) 4) (2)-1)	
	9	活動計画の作成 I 活動・ねらいの設定、指導案の作成					(1)-1) 2) (2)-1) 2) 3) 4)	
	10	活動計画の作成 II 活動計画に基づいた保育の実践					(1)-3) (2)-1) 2) 3) 4)	
	11	子どもの発達と園の環境 生命の保持、情緒の安定					(1)-1) 2) (2)-1)	
	12	生きる力を育む環境 I 好奇心・探求心を育む環境					(1)-1) 2) (2)-1)	
	13	生きる力を育む環境 II 自立心・道徳心を育む環境					(1)-1) 2) (2)-1)	
	14	関わりたくなるような環境の構成 環境を通して行う保育					(1)-1) 2)	
15	環境を通して行う保育の課題 子どもを取り巻く社会環境・保育環境の課題					(1)-2) (2)-1) 5)		
成績評価の方法	試験 (70%)、授業態度・意欲 (30%)							
テキスト	横山文樹 編著：『保育・教育ネオシリーズ 18 保育内容・環境』(同文書院)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)							
事前・事後学習	テキストの授業内容に該当する箇所に事前に目を通し、理解が深まるように準備して授業に臨んでほしい。また、事後にはテキストやプリントを見返し、授業での学びを身に付けてほしい。身近な自然について、日常的に興味・関心をもち、環境に関わる力が育つことを期待する。							

科目名	教育原理		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	五十嵐 隆文	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	教育の基本的概念の理解を基に、教育の理念や思想の流れと、さまざまな教育実践を歴史的に俯瞰し、考察すると共に、現代における日本の教育の方向性と教育課題について、多面的に学修する。授業中の話し合い、発表や、授業ノートにおける考察を通して、主体的・対話的で深い学びを得る。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2) 子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 (2) 教育の歴史に関する基本的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。 2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 (3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 1) 家庭や子どもに関わる教育の思想を理解している。 2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3) 代表的な教育家の思想を理解している。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	教育の基本的概念 (1) 教育と保育の全体像		教育の意義と目的		(1)-1)		
	2	教育の基本的概念 (2) 家庭、幼児教育施設、学校、社会における教育					(1)-2) 1)	
	3	教育の基本的概念 (3) 教育・保育と法制度①		教育・保育を支える法制度			(1)-1) 2)	
	4	教育の基本的概念	教育・保育と法制度②		学習指導要領、保育指針等の要点		(1)-1) 2) (2)-3)	
	5	教育の基本的概念 (4) 教育・保育職の専門性と研修					(1)-1) 2) (2)-3)	
	6	教育に関する歴史 (1) 公教育の歴史と「子供観」の変遷					(2)-1)	
	7	教育に関する歴史 (2) 江戸時代までの教育と近代学校教育の展開					(2)-1) 2)	
	8	教育に関する歴史 (3) 日本における幼児教育・保育施設の誕生と発展					(2)-1) 2) 3)	
	9	教育に関する思想 (1) 近代教育に大きな影響を与えた欧米の思想家達					(3)-1) 2) 3)	
	10	教育に関する思想 (2) さまざまな教授理論と教育実践					(3)-2) 3) 1)	
	11	教育に関する思想 (3) 幼児教育・保育を考えた人たち (倉橋惣三を中心に)					(3)-3) 1) 2)	
	12	現代社会における教育課題 (1) 保育者にとってのコンプライアンス 秘密を守る義務、信用失墜行為の禁止等					(1)-2) (2)-3)	
	13	現代社会における教育課題 (2) 保育者にとってのコンプライアンス 懲戒と体罰					(1)-2) (2)-3)	
	14	現代社会における教育課題 (3) 幼児期におけるキャリア教育の意義					(2)-3)	
15	現代社会における教育課題 (4) 幼児教育の不易と流行					(1)-2) (2)-3)		
成績評価の方法	授業ノート (40%)、レポートと発表 (40%)、授業態度・意欲 (20%)							
テキスト	パワーポイントと配布プリント資料を使用する。A 4 綴じ込みファイル必須 また、授業後に提出するための、「授業のまとめと考察ノート (B5 版)」必須							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領 (最新版)』、『保育所保育指針 (最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)』							
事前・事後学習	毎時間の授業の重要ポイントと考察を授業ノートにまとめ、指定日に提出する。							

科目名	教育制度		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	五十嵐 隆文	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	教育に関する制度的、経営的事項について、多面的に考察すると共に、学校と地域の連携や学校安全への対応などの現代的課題について学修する。授業中の話し合い、発表や授業ノートにおける考察を通して、主体的・対話的で深い学びを得る。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1-2) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公教育の原理及び理念を理解している。 2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。 <p>(1-3) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 4) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 <p>(2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 <p>(3) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取り組みを理解している。 							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	教育・保育に関する制度的事項 (1) 公教育の原理と理念					(1-2)-1)	
	2	教育・保育に関する制度的事項 (2) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法との関わりの要点					(1-2)-2) 1)	
	3	教育・保育に関する制度的事項 (3) 教育公務員特例法、地方公務員法との関わりの要点					(1-2)-2) 1)	
	4	教育・保育に関する制度的事項 (4) 児童の権利に関する条約、児童福祉法との関わりの要点					(1-2)-2)	
	5	教育・保育に関する制度的事項 (5) 教育行政と教育委員会制度					(1-2)-3) 1)	
	6	教育・保育に関する経営的事項 (1) 教育・保育施設の目的と機能					(1-3)-1)	
	7	教育・保育に関する経営的事項 (2) 園の組織と運営					(1-3)-1) 2)	
	8	教育・保育に関する経営的事項 (3) 学校評価の在り方と活用－自己評価、学校関係者評価、第三者評価					(1-3)-2)	
	9	教育・保育に関する経営的事項 (4) 学級経営とその効果的な方法－「おたより」を通じた保護者との連携					(1-3)-3)	
	10	教育・保育施設と地域との連携 (1) 「開かれた学校づくり」のために－「社会に開かれた教育課程」と「チームとしての学校」					(2)-1) 2)	
	11	教育・保育施設と地域との連携 (2) 地域との連携・協働による学校教育活動の推進の具体例					(2)-1) 2)	
	12	教育、保育施設における安全への対応 (1) 危機管理の全体像と保育者の責任					(3)-1) 2)	
	13	教育、保育施設における安全への対応 (2) 危機管理の具体的な事例の考察					(3)-1) 2)	
	14	教育・保育に対する期待と課題 (1) いじめを考察する					(1-2)-4)	
15	教育・保育に対する期待と課題 (2) 幼児教育・保育への期待と課題					(1-2)-4)		
成績評価の方法	授業ノート (40%)、レポートと発表 (40%)、授業態度・意欲 (20%)							
テキスト	パワーポイントと配布プリント資料を使用する。A4綴じ込みファイル必須 また、授業後に提出するための、「授業のまとめと考察ノート (B5版)」必須							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領 (最新版)』、『保育所保育指針 (最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)』							
事前・事後学習	毎時間の授業の重要ポイントと考察をノートにまとめ、指定日に提出する。							

科目名	教育課程・保育の計画と評価		必修・選択	必修		授業形態	講義	
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領等を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園や乳幼児の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	(1) 教育課程・保育課程の役割・機能・意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領等の性格及び位置づけ並びに、教育課程編成の目的を理解している。 2) 幼稚園教育要領等の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 (2) 教育課程編成の基本原則及び保育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 1) 教育課程編成の基本原則を理解している。 2) 総合的に捉えた保育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 3) 長期的な視野で捉える教育課程編成や、幼児を取り巻く幼稚園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 (3) 全年齢におけるカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領等に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	幼稚園・保育所の教育・保育課程の役割・機能・意義について 要領・指針から教育・保育課程の目的を探る。幼児の生活する姿をとらえる。					(1)-1), (1)-2) (1)-3), (2)-1)	
	2	幼稚園・保育所の教育・保育課程の役割・機能・意義について 幼児の発達特徴を捉え、教育・保育課程の連続性と一貫性について学ぶ。					(1)-1), (1)-2) (1)-3)	
	3	教育・保育課程を基本とした指導計画作成について 幼稚園教育要領等の内容(資質・能力の三つの柱、5領域、10の姿等の方向性から)を深める。					(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	4	教育・保育課程を基本とした指導計画作成について 指導計画の具体的な項目と内容を知る					(2)-1) (2)-2)	
	5	指導計画作成するうえで配慮すべき点と記述内容について 子どもの姿・ねらい・内容・環境の構成を中心に学び、記述する					(1)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	6	指導計画作成するうえで配慮すべき点と記述内容について 保育者の援助・配慮点を中心に学び、保育の見通しと保育用語の特徴をとらえる					(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	7	グループディスカッション(実習後の振り返りと他学生の実践から視野を広げる) 担当した園児の年齢別に分かれ指導案とその評価について考える					(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	8	映像を通して学ぶ指導計画と保育の実践について 指導計画と保育・指導計画と子どもの姿から保育における指導計画の意味を考える					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	9	教育・保育課程と長期の指導計画(幼児の生活する姿を見通すこと) 長期の指導計画・指導の重点について学ぶ					(2)-1), (2)-2) (2)-3)	
	10	教育・保育課程と長期の指導計画(地域の実態と園の実態を踏まえた編成の意義) 幼児の発達を見据えた事例を通して深める					(2)-1), (2)-2) (2)-3)	
	11	教育・保育課程と短期の指導計画(一日の生活の流れを予想した指導計画について) 実習体験を生かした事例研究と省察を通して考える					(2)-1), (2)-2) (2)-3)	
	12	教育・保育課程と長期・短期の指導計画 カリキュラム・マネジメントについて考える 保育における計画・実践・省察・評価・改善について学ぶ					(3)-1) (3)-2)	
	13	指導計画と評価について カリキュラム・マネジメントについて考える 望ましい保育の展開と子どもの実態をとらえる保育者の視点を知る					(3)-1) (3)-2)	
	14	様々な指導計画にふれる 11月幼稚園実習における指導計画作成を考え、作成に取り組む					(1)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
15	まとめとして これまでの学びを生かした自身の保育を創造する期待と関心をもつ					(1)-1), (1)-2), (2)-1) (2)-2), (2)-3), (3)-1) (3)-2)		
成績評価の方法	試験(60%)、演習課題(20%)、授業態度・意欲(20%)							
テキスト	指導計画の作成と保育の展開 文部科学省(フレーベル館)							
参考文献・資料	保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説書 幼保連携型連携こども園教育・保育要領解説書 保育用語辞典							
事前・事後学習	教科を超えた要領・指針の理解が重要となるので保育・教育課程編成も意識しながら事前に読んで授業参加すること。指導計画を作成する力を身に付けるために年齢による発達の特徴や適切な保育内容を調査する。							

科目名	幼児指導法		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用を含む。)ではこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) これからの社会を担う子どもたちに、求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現)を理解している。 3) 学級・教員・幼児・教材・保育室など保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 (2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 1) 子どもへの話しかけ方、環境を構成する力など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な指導理論を踏まえて、ねらい・内容、教材・教具、保育展開、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などの視点を含めた保育指導案を作成することができる。 (3) 情報機器を活用した適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 1) 子どもたちの興味関心を高めたり、保育内容を振り返ったりするために、幼児との体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 2) 子どもたちの情報モラルを含んだ活用能力を育成するための考え方や方法を理解している。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	実習園やホームページなどからその園での遊びの特徴や、保育内容を調べる。					(1)-1)	
	2	実習園やホームページなどからその園での遊びの特徴や、保育内容を調べ、遊びの捉え方の違いについて知り、教育方法の在り方について考える。					(1)-1), (1)-2) (1)-3)	
	3	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている保育方法の重要なポイントを自分なりにまとめ、教育方法の基礎的理解を深める。					(1)-2) (1)-4)	
	4	目標・内容、教材・教具、保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(造形的なあそび)					(2)-1) (2)-2)	
	5	目標・内容、教材・教具、保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(音楽的なあそび)					(2)-1) (2)-2)	
	6	目標・内容、教材・教具、保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(体育的なあそび)					(2)-1) (2)-2)	
	7	保育を構成する基礎的な要件と学習評価の基礎的な考え方を、映像や具体的な場面を通して理解することができる。					(1)-2) (1)-4)	
	8	これからの社会を担う幼児に求められている資質・能力についてDVD映像資料を通して理解することができる。					(1)-4)	
	9	幼児の総合的な活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けながら、基礎的理論を理解することができる。					(1)-3) (1)-4)	
	10	幼児の総合的な活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けながら、基礎的理論を理解することができる。					(1)-3) (1)-4)	
	11	グループで情報機器及び教材の活用について小グループでディスカッションし、保育構想に活用できるアイデアを用紙にまとめる。					(2)-2), (3)-1) (3)-2)	
	12	グループで情報機器及び教材の活用についてグループでまとめたアイデアを全体に発表し共有する。					(2)-2), (3)-1) (3)-2)	
	13	発達の時期に応じた保育方法について考え、具体的な言葉かけや教材の提示方法など援助の在り方を身に付ける。(入園当初の保育)					(2)-1) (2)-2)	
	14	発達の時期に応じた保育方法について考え、具体的な言葉かけや教材の提示方法など援助の在り方を身に付ける。(園生活に慣れてきた時期の保育)					(2)-1) (2)-2)	
15	発達の時期に応じた保育方法について考え、具体的な言葉かけや教材の提示方法など援助の在り方を身に付ける。(卒園を前にした時期の保育)					(2)-1) (2)-2)		
成績評価の方法	授業ノート(40%)、課題レポート(40%) 授業態度・意欲(グループワーク・実技など)(20%)							
テキスト	『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』 適宜資料を配布する							
参考文献・資料	『保育用語辞典』							
事前・事後学習	毎授業ごとに振り返りの記録を行う。							

科目名	幼児理解と教育相談		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	武田 留美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。 集団の中で適応的に生活する力を育み、個々の成長・発達を支援する教育活動(教育相談)に対応できるように、幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む。)を身に付ける。						
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	幼児理解の理論及び方法 (1) 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 1) 幼児理解の意義及び発達や学びを捉える原理を理解している。 2) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 (2) 幼児理解の方法を具体的に理解する。 1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事例を例示できる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 (3) 教育相談の意義と理論を理解する。 1) 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 (4) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。 1) 幼児の不応答や問題行動の意味、発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。 2) カウンセリングマインドの必要性を理解し、受容・傾聴・共感等のカウンセリングの基礎的な姿勢やスキルを理解している。 (5) 教育相談の進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 1) 役割に応じて、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の++目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ・不登園・虐待・非行等の課題に対する幼児の発達段階や課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画作成や必要な体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。						
授業計画	授業回数	授業の内容				関連する到達目標番号	
	1	授業の進め方 幼児理解の意義と教育相談とは				(1)-1) (3)-1)	
	2	幼児理解の基礎①：乳幼児の発達理解の重要性と発達の確認				(1)-1)	
	3	幼児理解の基礎②：幼児の集団での学びと発達、目的に応じた観察の視点と観察方法、記録の意義を学ぶ。				(2)-1) 2)	
	4	幼児理解の基礎③：集団生活の中で、他の子どもと関係性を築くための援助や関係性を築けない子どもについての理解や対応を考える。				(2)-2) 3)	
	5	教育相談の理論及び方法①：教育相談の意義や課題、実際の教育相談の場で用いられている心理療法の視点を理解する。				(3)-1)	
	6	教育相談の理論及び方法②：教育相談を行う際の基本的な場の設定の方法や姿勢、受容、共感的態度をロールプレイを通して理解する。				(3)-1) (4)-2)	
	7	教育相談の理論及び方法③：保護者との相談の場で配慮すべきことを考え、保育・教育の専門性を生かした教育相談を考える。保護者からの訴えや保育士・幼稚園教諭の観察に基づく、園での子どもの具体的な対応方法を考える。				(2)-4), (3)-1) (4)-2)	
	8	乳幼児の心の諸問題：各発達段階の課題と諸問題(乳児～就学まで) 保護者の不安につながりやすい子どもの要因を理解し、保護者支援としての教育相談を考える。				(2)-3) 4) (5)-1)	
	9	気になる子の特徴：様々な発達障害の特徴と対応の基礎を理解する。				(2)-3)	
	10	気になる子への対応：就学に向けて関わる関係機関を理解する。子どもの理解に基づく養護及び教育の一体展開のため、障害児、健常児含め、就学に向けて日常の保育の場面でできる就学へ向けての準備や援助を考える。就学後の躰きとなりやすい友人関係、集団行動、いじめ、登校しよりの基本的対応を学ぶ。				(1)-2), (2)-2) 3) (5)-2) 3)	
	11	虐待①：虐待の特徴と関連する法律を理解する。保育・教育の場で虐待を早期発見するための視点を年齢毎に理解し、被虐待児の行動特徴と対応の注意点を理解する。				(2)-3) 4)	
	12	虐待②：被虐待児を発見した際の対応と関連機関を理解し、関連機関との連携を考える。虐待家庭の保護者との関わり方、園として子どもを守る視点と取り組みの必要性を考える。				(2)-4), (4)-1) (5)-3)	
	13	子どもの心身に現われる不安のサインへの気づきと基本的対応の理解：分離不安やチック、吃音など、子どもの心身の不安のサインを理解し、基本的対応を学ぶ。子どもの様子に不安を感じている保護者への継続支援や相談体制を考える。				(4)-1) (5)-3) 4)	
	14	地域における子育ての連携と保育①：子育て不安の要因を映像資料や事例を通して考え、子育て支援に必要な視点や援助者として教育相談の場で必要な態度を理解する。				(1)-2), (2)-4) (4)-2), (5)-4)	
15	地域における子育ての連携と保育②：地域での子育て支援や、どのような相談の場所があるかを理解する。相談の場でどのような対応をするか事例を通して考え、ロールプレイを通して援助者と保護者の立場を体験し教育相談の意義を考える。				(1)-2), (2)-4) (4)-2), (5)-1)		
成績評価の方法	定期試験(75%)、課題提出(5%)、授業参加態度・ディスカッションや発表への意欲(20%)						
テキスト	なし						
参考文献・資料	馬場禮子、青木紀久代編『保育に生かす心理臨床』(ミネルヴァ書房) 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』						
事前・事後学習	授業では基本的事項が中心となるが、発達(特に乳幼児)の理解なくしては集団への適応やつまずきへの対処、保護者への対応を考えることは難しい。発達の基本的知識をその都度復習し理解しておくこと。時事問題に関して興味関心をもつ姿勢が求められる。						

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	五十嵐隆文・猿田興子	担当形態	オムニバス	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、実践的指導力を高めるために、使命感や対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力の向上方法などについて、事例研究やグループ討議、調査、実技、模擬授業などをおして学ぶ。</p>						
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 保育者の専門性、保育に対する使命感と責任感、情熱等を持ち、目指す保育者像をもてる。 1) 保育者の専門性、その特質を考え、自身の目指す姿を意識できている。 2) 保育者の成長を考える中で、研修の重要性と新人保育者としての課題を理解している。 3) 全国保育士倫理綱領から、保育者としての倫理を学び、理解している。 (2) 幼児理解に基づいたクラス運営、保育内容の指導とその評価に関する知識や技能の重要性を理解し、身に付けている。 1) 省察的実践者としての保育者になることと、その過程での成長と困難を理解し、保育に真摯に向き合おうとしている。 2) 省察的実践者として、子ども理解の方法と実際を理解している。 3) 保育者に求められる実践的力量的内容を知り、自身の課題を把握している。</p>						
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号
	1	授業の概要について(本科目の目標と計画、担当者等について説明する) これまでの学修の振り返りを行う(学修を振り返り、各科目の状況を把握する)					(1)-1) (1)-2)
	2	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける —子どもの発達的特徴を捉える—					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	3	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける —子どもの生活における基本的な生活習慣を捉える—					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	4	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける —子どもの遊びを理解する—					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	5	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける —子どもの人間関係を理解する—					(1)-1), (2)-1) (2)-2)
	6	幼児理解とカンファレンスを実践する。 —学生間のディスカッション後、幼児理解につながるカンファレンスについて学ぶ—					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)
	7	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する。 —エピソードの記述を通して、望ましい保育内容を理解する—					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)
	8	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する。 —エピソードの記述と読み取り・評価・省察について理解する—					(2)-2) (2)-3)
	9	保育者として倫理を理解し、使命感や責任感、教育的愛情について考える。 —保育専門職の基本を理解し、外部講師の講話で学ぶ—					(1)-3), (2)-1) (2)-2), (2)-3)
	10	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う。 —上司・同僚との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議)					(1)-1) (1)-3)
	11	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う。 —保護者との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議)—					(1)-1) (1)-3)
	12	これからの幼児教育・保育について深めて学ぶ。 —幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂—					(1)-1), (1)-2) (1)-3), (2)-3)
	13	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする。 —保育における運動遊び、遊びの充実を実践から学ぶ—					(2)-1), (2)-2) (2)-3)
	14	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする。 —保育における造形・表現の指導について美術館見学において学ぶ—					(2)-1), (2)-2) (2)-3)
15	幼児理解とクラス運営について外部講師の講義から理解する —クラス運営を中心に講義を受け、自身の保育者像につなげて考える—					(1)-1), (1)-2), (1)-3) (2)-1), (2)-2), (2)-3)	
成績評価の方法	提出課題(70%)、授業態度・意欲(30%)						
テキスト	随時、プリント、資料等を配布する。						
参考文献・資料							
事前・事後学習	これまでの学びを確認し自分にとっての課題の克服を目指すこと。提出課題には丁寧に取り組むこと。						

科目名	子ども家庭支援論		必修・選択	選択必修（保資必修）		授業形態	講義
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>様々な課題を抱えながらも幸せな生活を築こうとする現代の家族の実態と家族を取り巻く状況について理解する。</p> <p>家族の福祉の実現のための支援体制や支援方法について具体的に理解する。また、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。</p> <p>家族や家庭に関する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。</p>						
一般目標（No.）及び到達目標（No.）	<p>(1) 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。</p> <p>1) 子育て家庭に対する支援の意義を理解している。</p> <p>2) 子育て家庭に対する支援の目的と役割を理解している。</p> <p>(2) 保育士による子ども家庭支援の意義について理解する。</p> <p>1) 支援における保育士の役割について理解している。</p> <p>2) 保育士に求められる基本的態度について理解している。</p> <p>(3) 子育て家庭に対する支援体制について理解する。</p> <p>1) 支援体制と社会資源を理解している。</p> <p>2) 子育て支援施策を理解している。</p> <p>(4) 子育て家庭に対する支援の具体的な展開について理解する。</p> <p>1) 支援の具体的な対象や内容について理解している。</p> <p>2) 要保護児童とその家庭に対する支援について理解している。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容				関連する到達目標番号	
	1	家族・家庭の福祉 家族・家庭の定義と意義・機能				(1)-1)	
	2	子育て家庭への支援 子育て家庭への支援の意義と目的				(1)-2)	
	3	子育て家庭を取り巻く状況 家族の形態と家族に起こる問題の変容				(1)-1) 2)	
	4	子育て家庭を取り巻く状況 地域と家族に起こる問題の変容				(1)-1) 2)	
	5	子育て家庭を取り巻く状況 現代の家族の姿とそこに起こる諸問題				(1)-1) 2)	
	6	保育士による子ども家庭支援 支援における保育士の役割				(2)-1)	
	7	保育士による子ども家庭支援 保育士に求められる基本的態度				(2)-2)	
	8	保育士による子ども家庭支援 家庭の状況に応じた支援				(2)-1) 2)	
	9	子育て家庭に対する支援体制 社会資源				(3)-1)	
	10	子育て家庭に対する支援体制 子育て支援施策				(3)-2)	
	11	子育て家庭支援の具体的展開 支援の対象や内容				(4)-1)	
	12	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（DV）				(4)-1) 2)	
	13	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（児童虐待①）				(4)-1) 2)	
	14	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（児童虐待②）				(4)-1) 2)	
15	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応（障害児がいる家庭）、関係機関とその連携				(4)-1) 2)		
成績評価の方法	定期試験（70％）、授業・ディスカッションへの参加態度（30％）						
テキスト	吉田眞理 著：『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』（萌文書林） 『社会福祉小六法 2019（ミネルヴァ書房）』						
参考文献・資料	必要に応じて提示						
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。						

科目名	子ども家庭支援の心理学		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義	
担当者	金澤 久美子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	<p>この科目は、子育て家庭への支援について理解する為に心理学的な視点で学ぶ科目である。その為に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関して心理学的な基礎知識を学ぶ 2. 家族と家庭の意義や機能や子育て家庭をめぐる社会的状況と課題について理解する。 3. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4) 子どもの精神保健とその課題について理解する。 							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	生涯発達とライフサイクル					1)	
	2	乳児期から幼児期にかけての発達					1)	
	3	学童期の発達					1)	
	4	青年期の発達					1)	
	5	成人期・老年期の発達					1)	
	6	家庭の役割・現代家庭の課題					2)	
	7	家庭をとりまく社会の動向					3)	
	8	家族が抱える子育ての悩み					2)	
	9	特別な配慮を必要とする家庭への支援					3)	
	10	保育者に求められる家庭支援					3)	
	11	小児精神保健の概要					4)	
	12	乳児期の精神保健					4)	
	13	幼児期の精神保健					4)	
	14	学童期以降の精神保健					4)	
15	まとめ ～より良い支援のために					2) 3) 4)		
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業態度・意欲(30%)							
テキスト	なし(授業毎にプリントを配布する)							
参考文献・資料	井上美鈴・原信夫編『子ども家庭支援の心理学』(北樹出版 2019年)							
事前・事後学習	これまでの1年間の学びをもとに、保育者に必要な配慮について、常に学んでほしい。グループワークにも積極的に参加し、自己理解も深めてほしい							

科目名	発達心理学		必修・選択	選択		授業形態	講義	
担当者	金澤 久美子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	<p>保育者にとって発達の視点は欠かせない。この授業では、乳児期から老年期までの発達段階を追いながら、発達に関する広い視点を養う。また、発達現場における子どもの育ちについて総復習をしながら心理的なケアのポイントについて理解を深める。さらに自らの育ちについても考察をしていく。</p>							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 子どもの発達を見る視点を養う 1) 心理学的な諸理論について学ぶ (2) 子どもの日常的な言動などから発達を理解する視点を養う 1) 発達段階に則して子どもの姿を捉えられるようになる (3) 気になる子どもに対してする適切なかかわり方を考察する 1) 子どもの困り感に目を向けて対応について考察する 2) 保護者への支援について考察をする (4) 生涯発達の視点を養う 1) 自らの育ちに目を向けて発達を味わう</p>							
授 業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	授業の進め方、発達心理学のポイントについて					(1)-1)	
	2	保育実践の評価について基本的なとらえ方を学ぶ					(1)-1)	
	3	発達観、子ども観をもとにした保育観について考察を深める					(1)-1)	
	4	発達の原理や子どもをとりまく環境について理解する					(1)-1)	
	5	感情の発達や自我の芽生えについて学ぶ					(2)-1)	
	6	身体的機能と運動機能の発達の基本を学ぶ					(2)-1)	
	7	新生児から幼児期までの知覚と認知の発達過程を学ぶ					(2)-1)	
	8	言葉の芽生えからコミュニケーションの発達について学ぶ					(1)-1)	
	9	基本的信頼感につながる愛着の発達について学ぶ					(1)-1)	
	10	他者とのかかわり・社会的相互作用の中で育つものや愛着のネットワークについて学ぶ					(3)-1) (3)-2)	
	11	生涯発達の視点が保育実践の場で必要なことを理解する					(4)-1) (3)-2)	
	12	胎児期から新生児期にかけての発達を学ぶ					(1)-1)	
	13	乳幼児期の発達について学ぶ					(1)-1) (3)-1)	
	14	学童期から青年期の特徴について学び、自己理解を深める					(4)-1)	
15	成人期から老年期まで生涯発達の視点で理解を深める					(4)-1)		
成績評価の方法	定期試験 (70%)、授業態度・意欲 (30%)							
テキスト	なし (授業毎にプリントを配布する)							
参考文献・資料	青木紀久代編：『実践・発達心理学』(みらい)							
事前・事後学習	これまでの1年半の学びをもとに、主なトピックスについて理解を深める。グループワークにも積極的に参加し、自己理解を深めてほしい							

科目名	保育内容総論		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習	
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
授業の概要及び全体目標	<p>「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている保育内容について、基本的な考え方への理解を深めるとともに、子どもにかかわる専門職という役割を理解する。</p> <p>保育に対する幅広い視野をもち、保育にかかわる各分野に関する専門知識・技術などを身に付ける。</p>							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 保育の基本を踏まえた幼稚園における指導法の考え方を理解する。</p> <p>1) 幼児期の保育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。</p> <p>2) 遊びを通して総合的な指導の意義と保育者の役割が説明できる。</p> <p>3) 子どもの心に寄り添う幼児理解の方法と援助の在り方について説明できる。</p> <p>4) 幼稚園・保育所・認定こども園の保育と小学校教育との円滑な接続について理解している。</p> <p>(2) 保育における指導計画の考え方を理解し、子どもの発達過程を見通した指導計画作成を理解する。</p> <p>1) 保育における指導計画に考え方について説明できる。</p> <p>2) 長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。</p> <p>3) 具体的な子どもの姿から指導計画を作成する手順と配慮点について説明できる。</p> <p>4) 指導計画の評価の考え方について理解している。</p> <p>(3) 子どもの興味・関心や発達の実情に応じた具体的な指導の在り方を理解する。</p> <p>1) 子どもの実態に沿って、物や人との関わりを深める視点から教材を工夫する力を付ける。</p> <p>2) 保育記録を書くことを通して、子どもを理解する力を付ける。</p> <p>3) 保育内容を理論と実践の統合という視点から理解する。</p>							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション 幼児教育・保育の基本について理解する					(1)-1) 2)	
	2	幼児教育・保育の保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育のねらいと内容を理解する					(1)-1) 2)	
	3	保育の基盤としての子ども観 子ども観と保育の内容について理解する					(1)-3)	
	4	保育の1日の流れと保育内容 遊びを中心とした生活に中でどのような経験をしているのかについて学ぶ					(1)-2) 3)	
	5	子どもの育ちと保育内容 視聴覚教材を活用し、0～2歳児の発達と保育内容を理解する					(1)-3)	
	6	子どもの育ちと保育内容 視聴覚教材を活用し、3～5歳児の発達と保育内容を理解する					(1)-3)	
	7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 保育と学童期以降の育ちのつながりを理解する					(1)-4)	
	8	発達を促す遊びの環境 子どもを取り巻く環境について理解する					(1)-2) 3) (3)-1) 2)	
	9	保育の計画と観察・記録と評価Ⅰ 教育課程・保育課程、指導計画について学ぶ					(2)-1) 2) 3) 4)	
	10	保育の計画と観察・記録と評価Ⅱ 省察、評価の方法を理解する					(2)-1) 2) 3) 4)	
	11	園と家庭との連携 多様な保育ニーズと保育内容について理解する					(1)-3)	
	12	多様な子どもと共に育つ保育 事例を通して「多様な子ども」の保育を考える					(2)-3) (3)-1)	
	13	文化・社会の中の子ども 保育内容の変遷について学ぶ					(2)-4) (3)-2)	
	14	保育内容の展望 多文化共生、ICTと保育、森の幼稚園について学ぶ					(3)-1) 2) 3)	
15	保育の現状と課題 保育の質・保育者の専門性向上について理解する					(3)-1) 2) 3)		
成績評価の方法	試験(60%) 課題(20%) 授業態度(20%)							
テキスト	渡辺英則・大豆生田啓友編：『保育内容総論(新しい保育講座)』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、森上史朗・柏女靈峰編：『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)、『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』							
事前・事後学習	授業で次回の内容を指示するので、テキストをよく読んで授業に臨んでほしい。また、事後には授業内容について復習し、理解を深めるようにすることとともに、子どもをめぐる様々なニュースに興味・関心をもってほしい。							

科目名	乳児保育Ⅱ		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>乳児保育を取り巻く社会情勢の変化を認識し、乳幼児期が人間として成長する基礎づくりとし心身共に成長、発達著しく非常に重要な時期であることを理解する。その時期の育ちを支える保育者として乳児の生活の環境を含めて「乳児の最善の利益」を保障するために必要な知識や技術を学ぶ。</p> <p>※「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに、乳児のかかわる保育者のありようや、乳児の生活の環境をどのように望ましいものにしていくべきかを探求していく。</p>						
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 乳児保育における社会情勢の特徴を知る。 1) 乳児とともに暮らす大人の存在と地域環境、文化等を理解している。 2) 乳児に向かい合う大人としてのかかわり方に関心をもてる。 (2) 乳児の発達の特徴を理解する。 1) 各年齢における発達の基本的な姿を理解している。 2) 各年齢における発達を理解した保育者のかかわり方を身につけようとする。 (3) 乳児の生活と遊びを保障する環境をとらえる。 1) 人的環境としての保育者のかかわり方を理解している。 2) 乳児を生活や遊びの主体とした環境に関心を持っている。 (4) 乳児の生活と遊びを支える保育者の役割を理解する。 1) 複数担任で保育する連携の重要性を理解する。 2) 乳児の育ちを支える記録の重要性とその方法を理解する。 3) 乳児保育における子育て支援について関心をもてる。</p>						
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号
	1	授業オリエンテーション 乳児保育の現状と課題について		乳児のための保育施設の多様化等事例から		(1)-1) (1)-2)	
	2	乳児の発達の特徴 6か月未満児の発達と援助		人とかかわっていくことが発達の基本		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	3	乳児の発達の特徴 6か月未満児の遊びと環境		アタッチメントを形成することの意味		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	4	乳児の発達の特徴 6か月～12か月の発達と援助		園生活における保育者とのアタッチメント		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	5	乳児の発達の特徴 6か月～12か月の遊びと環境		子どもの理解に基づく保育の展開		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	6	乳児の発達の特徴 1歳以上3歳未満児の発達と援助		身体の発達に伴う新しい世界の広がり		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	7	乳児の発達の特徴 1歳以上3歳未満児の遊びと環境		言語の発達に伴うコミュニケーションの広がり		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (3)-2)	
	8	乳児の生活と遊びの基本的事項 乳児の生活と遊びの考え方		社会性に伴う人・もののつながり		(2)-1), (2)-2) (3)-1), (4)-2)	
	9	乳児の生活と遊びの基本的事項 乳児の生活と遊びの考え方		生活の基本と乳児保育における健康・安全対策		(2)-1), (2)-2) (4)-1), (4)-2)	
	10	乳児の生活と遊びの基本的事項 乳児の生活と遊びの考え方		主体となる乳児の遊び		(2)-1), (2)-2) (4)-1), (4)-2)	
	11	乳児保育の環境構成 0 1 2歳児の保育に必要な環境構成				(2)-1), (2)-2) (4)-1), (4)-2)	
	12	乳児保育における連携について 保育者間の連携 家庭・地域との連携				(4)-1), (4)-2) (4)-3)	
	13	乳児保育における全体的な計画と保育の記録について 指導計画に基づく保育実践 保育記録の重要性				(4)-1), (4)-2) (4)-3)	
	14	一人一人を健やかに育てていくために 子育て支援について		子どもの育ちを家庭と連携して支援する		(4)-1), (4)-2) (4)-3)	
15	まとめ 乳児保育における保育者の専門性 乳児保育に携わる保育者の資質向上に向けて				(4)-1), (4)-2) (4)-3)		
成績評価の方法	レポート(50%)、演習課題(30%)、授業態度・参加(20%)						
テキスト	なし						
参考文献・資料	小山朝子ほか：「講義で学ぶ 乳児保育」(わかば社) 阿部和子、大場幸夫：「新・保育講座 乳児保育第2版」(ミネルヴァ書房)						
事前・事後学習	乳児と触れ合う実践の機会をもつことで乳児を理解することにつながるので実習等での観察体験を考察に生かしてほしい。また、演習課題等に主体的に取り組み、授業に生かす姿勢が求められる。						

科目名	社会的養護Ⅱ		必修・選択	選択(保育必修)		授業形態	(演習)
担当者	佐々木久仁明	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	社会的養護Ⅰの基礎理論を踏まえ、より深くより具体的に児童の援助方法を知ると共に、演習事例をとおして権利擁護や自立支援の実践的側面に触れ、保育士の責任と役割の重要性及びその内容を理解する。						
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 現代社会の家族や児童の状況を知り、その背景を探りながら社会的養護の必要性やあり方を理解する。 1) 社会的養護に関わる専門的知識・技術を学び、ケアの流れ(アドミッション→イン→リービング→アフター)の内容や留意点を理解する。 2) 社会的養護における保育士の役割を理解し、養護の対象児童とその家族の現状に沿った支援計画を作成できる。 3) 子どもの養育は、その保護者や地域との関わりの中で成り立つことを理解する。(特に入所時) (2) 施設養護や里親制度などの社会的養護の特性や実際について理解する。 1) さまざまな事例をもとに、子どもの自己決定を大切に生活プログラム(日課)を理解できる。 2) 仲間との交流や職員の温かく見守る姿勢の大切さや日常生活の支援、治療的支援、自立支援等について理解する。 (3) さまざまな施設の特徴について理解するとともに子どもたちの生活支援について学ぶ。 1) 安心、安全、個別化、愛着形成などについて理解を深める。特に愛着形成と自立との関係性について学ぶ。 2) ユニットケア、グループホーム、里親制度など家庭(的)養護について学ぶ。 3) 課題と展望						
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	今日の養護問題と保育士の仕事 ○家庭状況の変化、ライフサイクルの変化、施設機能と養護体系(演習) T君の事例と保育士の仕事「あなたがこの子の先生だったらどうしたいと思いますか」					(1)-2)
	2	社会的養護にはそれぞれのプロセスがあります。アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケアそして個々にP・D・C・Aです。各々の留意点及び施設養護の長所・短所を理解します。(演習) 家庭復帰が遅れたA君の事例					(1)-1)
	3	児童養護施設の生活を例として、その基本的な援助のあり方(日常生活支援) 自立に向けての支援、生活プログラム(一日の流れ)及び衣食住・保健衛生・金銭物品管理等のあり方 ○親子関係を繋ぐ					(1)-3) (2)-1)
	4	前回3の続き→学習指導、余暇指導、遊び、環境整備、レクリエーション、安全指導、地域交流(提出課題演習) 行事計画をたてよう又は遊びの意義について					(2)-2)
	5	小規模グループケア、家庭的援助(こころの援助) ①おちついた生活環境②大人との心の安定③仲間との生活体験 次の形態での生活状況は? ・ユニットケア ・地域小規模児童養護施設・ファミリーホーム ・分園型自活訓練事業(3)-1)2)					(3)-1) 2)
	6	グループ討議 ①演習事例検討「新入所児を迎えて」M子の事例 ・甘えと依存 ・他の子への影響と配慮					(1)-1)
	7	乳児院の生活 ・ホスピタリズムからの出発→愛着形成、担当制、親子関係、家庭復帰 里親制度 ・里親委託、パーマネンシー(プランニング) ・課題 子どもの問題、ミスマッチ(里親不調)、実親との関係					(3)-1) 2)
	8	児童自立支援施設における生活 歴史経過、日課、入所経路、生活指導、作業指導、学習指導、寮生活、三能主義					(2)-1) 2) (3)-1)
	9	母子生活支援施設における生活 入所理由、DV、シェルターの役割、母子自立支援(サテライト型)、就業支援					(1)-3) (2)-1) 2)
	10	事例検討 A太君の親子関係を考える 親子関係の調整における保育士の役割					(1)-3)
	11	グループ討議② 演習事例検討「肢体不自由のある子どもの自立援助を考える」T君の事例 ・ADLと自己決定					(2)-1)
	12	知的障害児施設における生活→自己決定、社会的許容、自閉症児施設 児童家庭支援センター・児童観→相談援助、子育て支援					(3)-1)
	13	児童心理治療施設→虐待、トラウマ、心理療法、家庭との連携 一時保護所→虐待と緊急入所、提出課題・演習「自立支援計画を立てよう」					(2)-2)
	14	分園型自活訓練事業 リービングケアの一例 } 社会生活訓練指導、就業学習支援 児童自立生活援助事業 アフターケアの一例 } ●自立とは?ある小児科医の体験から					(2)-2)
15	まとめ					(3)-2) 3)	
成績評価の方法		定期試験(70%)、レポート(20%)、授業態度・意欲(10%)					
テキスト		辰己隆・岡本真幸:『新版 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』(みらい)					
参考文献・資料		『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房) 庄司順一・鈴木力也編著:『社会的養護シリーズ』全4巻(福村出版)					
事前・事後学習		グループ討議も行います。この場合は事前にテーマを示しますので、事前の学習と討議終了後のレポートの提出をしてください。					

科目名	子育て支援		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習	
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	子育て支援・保育相談支援の内容、現状、課題などを踏まえた上で、保育所保育指針に示された「子育て支援」の内容について背景となる専門知識と関連させて理解を深める。その上で、保育士の行う保護者支援、子育て支援の内容と方法及び技術を現場体験や実践事例を通して理解し身に付ける。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 1) 保育所保育指針における「子育て支援」の内容を理解している。 2) 子育て支援の多様性と現代の家庭を取りまく社会現状を理解している。 3) 日常の保育における保護者支援の内容と実践を理解している。 (2) 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践や事例等を通して具体的に理解する。 1) 地域における子育て支援活動について具体的な内容を調べ、関係機関や他の専門職との協働について理解を深める。 2) 現場体験を通し、保護者とのかかわりについて理解を深め、実践的な方法、技術を身に付ける。 3) 保育相談支援の直接的、間接的な手段を学び技術を身に付ける。 4) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解を深めるために、多様な子育て支援(ノーバディズパーフェクトプログラム等)の手法を身に付ける。							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について、子育て家庭の現状や課題を踏まえながら理解する。					(1)-1)	
	2	保育所において日常的に行われる保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。					(1)-1)	
	3	子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供について考え、保育士の行う子育て支援の特性について理解する。					(1)-2)	
	4	子育て支援の多様性と現代の家庭を取りまく社会現状のニーズを理解する。					(1)-2)	
	5	日常的な保育の中で行われる保護者支援の在り方についてグループでディスカッションする。					(1)-3)	
	6	子育て支援活動の実際をグループで企画し、必要な教材等を準備する。					(2)-1)	
	7	保護者や子育て家庭に対する理解をするために具体的な方法や技術を支援センターのスタッフ等の動きから学んで理解する機会を設ける。(学園内)					(2)-2) 3)	
	8	保護者や子育て家庭に対する理解をするために具体的な方法や技術を支援センターのスタッフ等の動きから学んで理解する機会を設ける。(学園外・地域)					(2)-2) 3)	
	9	保育士の行う子育て支援の実際について支援の計画と環境構成について理解する。					(2)-2)	
	10	保育所における保育相談支援の特性について理解する。					(2)-2) 3)	
	11	保育相談支援の方法と技術について理解する。					(2)-2) 3)	
	12	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(Ⅰ 発達援助の技術)					(2)-2) 3)	
	13	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(Ⅱ 生活援助や関係構築の技術)					(2)-2) 3)	
	14	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(Ⅲ 環境構成や遊びを展開する技術)					(2)-2) 3)	
15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解を深めるために、多様な子育て支援(ノーバディズパーフェクトプログラム等)の手法を身に付ける。					(2)-4)		
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業ノート(20%)							
テキスト	適宜資料を配布							
参考文献・資料	『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』							
事前・事後学習	授業内容と関連する配布資料や参考文献を読み、内容を深め、ノートを指定日に提出する。							

実 習

科目名	教育実習指導		必修・選択	選択(幼免必修)		授業形態	実習	
担当者	佐々木 啓子	担当形態	複数	単位数	1	学年 期間	1・2年通年	
授業の概要及び全体目標	<p>講義や映像、附属幼稚園見学などの体験を通して、実習の意義や目的を理解するとともに、実習を円滑に進めるための心構えや実践的知識を理解する。</p> <p>さらに幼稚園の役割や機能、保育内容等を総合的に学び、実践を通して自らの保育の課題を明確にし、教員になるうえでの能力や態度を身につける。</p>							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	<p>(1) 事前指導では教育実習生として実習施設の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得に向けて習得すべき知識や技術等について知り、これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。</p> <p>(2) 授業で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身につける。</p> <p>1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成等)を実地に即して身につけるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用できる。</p> <p>3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。</p> <p>4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。</p>							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション	自習の意義・目的			(1)-1) 2)		
	2	教育実習の位置づけ	2年間の実習予定(実習の種類・期間・回数)			(1)-1) 2), (2)-4)		
	3	実習園の選択について	実習園の選択と留意すること			(1)-2), (2)-3) 4)		
	4	幼稚園とは	幼稚園・保育所・認定こども園の違い、幼稚園の一日の流れ			(1)-1) 2), (2)-3) 4)		
	5	保育者のイメージ	幼稚園の中の子どもと保育者			(2)-3) 4)		
	6	実習の方法と理解	DVD視聴			(1)-2), (2)-3) 4)		
	7	実習オリエンテーション	内容、連絡方法の理解、態度、持ち物の確認			(1)-1)		
	8	幼稚園教育要領を見るⅠ	環境を通して行う保育			(1)-1) 2)		
	9	幼稚園教育要領を見るⅡ	遊びを中心とした保育			(1)-1) 2)		
	10	幼稚園教育要領を見るⅢ	幼稚園の特徴(小学校との指導方法の比較から)			(1)-1) 2), (2)-3) 4)		
	11	実習における基本的態度・マナーⅠ	実習中の生活、健康管理の重要性			(1)-1) 2)		
	12	実習における基本的態度・マナーⅡ	実習生の社会性(コミュニケーション)			(1)-1) 2)		
	13	附属幼稚園の見学Ⅰ	子どもの園生活の姿の理解			(2)-1) 3)		
	14	附属幼稚園の見学Ⅱ	見学後のディスカッション・省察			(1)-1) 2), (2)-3) 4)		
	15	実習に必要な準備	事前に準備すること(エプロン、絵本、手遊び)			(1)-1), (2)-1) 3)		
	16	教育実習記録の記述Ⅰ	実習記録の記述方法と留意点・保育の用語			(1)-1) 2), (2)-2) 4)		
	17	教育実習記録の記述Ⅱ	子ども理解、保育者の動き、環境構成			(1)-1) 2), (2)-2) 3)		
	18	総合的発達の特徴	子どもの生活と発達を関連づけて考える			(2)-1) 2) 3) 4)		
	19	領域のとらえ方	遊びや生活の姿から発達を読み取る			(2)-1) 2) 3) 4)		
	20	活動のとらえ方	子どもの視座から活動をとらえる			(1)-1) 2), (2)-1) 2)		
	21	環境構成と主体的遊び	子どもが環境と関わる重要性			(1)-1) 2), (2)-1) 2)		
	22	教育実習を終えてⅠ	自己評価を通じた教育実習のふりかえり			(1)-1) 2), (2)-2) 4)		
	23	教育実習の省察Ⅰ	実習中のエピソードから教育実習を省察			(1)-1) 2), (2)-2) 4)		
	24	教育実習の省察Ⅱ	部分実習の反省、次回の実習に向けての課題確認			(1)-1) 2), (2)-2) 4)		
	25	指導計画の立案	主活動の教材研究、責任実習の指導案作成			(1)-1) 2), (2)-3) 4)		
	26	教育実習の省察	グループディスカッションを通じた教育実習の省察			(1)-1) 2), (2)-3) 4)		
	27	【演習】環境構成を考える	グループワーク パソコンによる指導案作成			(1)-1) 2), (2)-1) 2)		
	28	【演習】援助のポイントを考える	グループワーク パソコンによる指導案作成			(1)-1) 2), (2)-1) 2)		
	29	保育者の専門性	保育者としての意識、専門性についての理解			(1)-2), (2)-1)		
30	教育実習の学びとまとめ	子ども・保育を観る目の変容			(1)-1) 2), (2)-1) 2) 3) 4)			
成績評価の方法	提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(40%)、実習記録(10%)							
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩:『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)							
事前・事後学習	自らが幼児期の発達に関わることを自覚し、目的を持って実習にあたるように自主的に学びを進めてほしい。保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。							

科目名	保育実習指導 I		必修・選択	選択 (保育必修)		授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子	担当形態	複数	単位数	2	学年 期間	1・2年通年	
授業の概要及び全体目標	実習に向け児童福祉施設の目的とその機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。							
一般目標 (No.) 及び到達目標 (No.)	<p>(1) 事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察するとともに資格取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解する。</p> <p>1) 実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。</p> <p>2) 実習を通して得られた知識と経験を振り返り、資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2) これまで学んだ領域や保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>1) 各要領・指針と幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>2) 保育に必要な基礎的技術 (話法・保育形態・保育展開・環境構成など) を身に付けるとともに適切な場面で自身の技術を活用することができる。</p> <p>3) 保育者の役割と職務内容を理解している。</p> <p>4) 様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。</p>							
授業計画	授業回数	授 業 の 内 容					関連する到達目標番号	
	1	オリエンテーション 2年間における保育実習の回数・期間・種類について					(1)-1), (1)-2)	
	2	各実習の内容とその位置づけ 実習の目的とその概要について					(1)-1), (2)-3), (2)-4)	
	3	実習園の選択について 実習先 (児童福祉施設) 選択とその留意点と記述について					(1)-2), (2)-3), (2)-4)	
	4	実習の方法と理解 映像を通して					(1)-2), (2)-3), (2)-4)	
	5	保育所保育指針から 子どもの発達とその特徴 幼稚園教育要領との違いから					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	6	保育所保育指針から 子どもの生活環境と保育圏での生活について					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	7	実習園におけるオリエンテーションについて 連絡方法・態度・持ち物・事前準備・その重要性					(1)-1)	
	8	実習における基本的態度・マナーと意識 実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活から					(1)-1), (1)-2)	
	9	実習における基本的態度・マナーと意識 実習生の社会性について考えあう					(1)-1), (1)-2)	
	10	保育実習における安全管理の重要性 守秘義務の重要性・養護と教育を事例から					(1)-1), (1)-2)	
	11	保育実習記録の記述について 保育所の目的と機能・保育のねらいから					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	12	保育実習記録の記述について 保育所生活の流れ・保育の見方・子ども理解につながる記録					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-3)	
	13	保育実習記録の記述について 保育用語・記録法・記録時の留意点について					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	14	乳児保育における養護と教育について 保育実習を通して・乳児への望ましい援助について					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	15	0・1・2歳児の生活と遊び その特徴と配慮すべき点、適切な環境について					(2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	16	3・4・5歳児の生活と遊び その特徴と配慮すべき点、適切な環境について					(2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	17	保育実習を終えて 学生同士の話し合い 省察レポートを記述等で振り返りをする					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	18	施設実習に向けて 学生同士のイメージの伝え合いから					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	19	施設実習について 施設の種類とその特徴					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	20	施設実習について 施設の生活と保育者の援助 実習生の援助について					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	21	施設実習について 施設職員の職務内容と保育士の役割について					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	22	施設別実習事前オリエンテーション 学生・施設別担当教員による協議を通しての学び					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	23	施設別実習事前オリエンテーション 学生・施設別担当教員による協議を通しての学び					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	24	施設実習記録の記述について 施設別先輩実習生から実践事例を聞く					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-4)	
	25	施設実習記録の記述について 施設別先輩実習生から実践事例を聞く					(1)-1), (1)-2), (2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	26	施設実習を終えて 学生・施設別担当教員による協議を通して省察する					(2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	27	施設実習を終えて 学生・施設別担当教員による協議を通してまとめる					(2)-2), (2)-3), (2)-4)	
	28	保育所保育指針より 子育て支援の現状と保育者の役割について学ぶ					(1)-2), (2)-1)	
	29	保育所保育指針より 保育者の専門性について 実習体験をまとめる					(1)-2), (2)-1)	
30	2年間における保育実習のまとめ 乳児・幼児・入所児の内面理解と自身の変化について					(1)-1), (1)-2), (2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4)		
成績評価の方法	提出課題 (30 %)、授業態度・意欲 (20 %)、実習評価 (40 %)、実習記録 (10 %)							
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩『最新保育講座 12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育用語辞典』							
事前・事後学習	保育者の求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。授業毎に実習に関する課題があるので、期日を意識して取り組むこと。							

科目名	保育実習指導Ⅱ		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子	担当形態	複数	単位数	1	学年 期間	2年・通年	
授業の概要及び全体目標	これまでの実習体験を生かしながら、部分・責任実習に向け指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に学び理解する。さらに実習事後のグループ協議・省察を通して保育の観察の視点、記録の仕方及び自身の保育を振り返ることで指導計画における評価と保育の改善について実践的に深めることができる。							
一般目標(No.)及び到達目標(No.)	(1) 事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では成果と課題等を省察するとともに免許取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解する。 1) 実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。 2) 実習を通して得られた知識と経験を振り返り、免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 (2) これまで学んだ領域や保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身に付ける。 1) 各要領・指針と幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を身に付けるとともに適切な場面で自身の技術を活用することができる。 3) 保育者の役割と職務内容を理解している。 4) 様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。							
授業計画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号	
	1	保育所保育指針について 保育実習における責任実習 幼児理解と「教育」「養護」を再確認する					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	2	保育計画とは 実践に生きる計画とは 子どもの視点から計画を考える					(1)-1), (1)-2) (2)-3), (2)-4)	
	3	保育計画と実践・評価 附属幼稚園模擬授業を通して(活動と遊びの姿を捉える)					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-4)	
	4	保育計画と実践・評価 附属幼稚園模擬授業を通して(計画と実践の関係性を探る)					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-4)	
	5	保育における活動のとらえ方について 保育者の願いと子どもの思い 事例から考える					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-4)	
	6	保育における活動のとらえ方について 子どもの興味関心・発達段階・季節・経験から考える					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-4)	
	7	遊びの総合的発達とは 遊びと生活の姿を領域から捉え、総合的発達へつなげる					(2)-1), (2)-2) (2)-3), (2)-4)	
	8	子どもの遊ぶ姿から 事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	9	子どもの生活する姿から 事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	10	活動のとらえ方 園生活の実態と指導計画 その実践と評価					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	11	環境の構成と主体的遊びについて 子どもの視座から環境を捉え直す					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
	12	日の指導計画立案と作成 発達・時期・興味・関心と子どもの姿					(1)-1), (1)-2) (2)-3), (2)-4)	
	13	保育実習の振り返り 責任実習での振り返りと課題 グループディスカッションを通して					(1)-1), (1)-2) (2)-3), (2)-4)	
	14	保育所保育指針から 保育の記録と評価、保育所児童保育要録記述について					(1)-1), (1)-2) (2)-1), (2)-2)	
15	二年間の学びにおける実習生の変容 まとめとして 子どもを理解する視点の変化を中心に					(1)-1), (1)-2), (2)-1) (2)-2), (2)-3), (2)-4)		
成績評価の方法	提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(40%)、実習記録(10%)							
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育用語辞典』							
事前・事後学習	保育者の求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。授業毎に実習に関する課題があるので、期日を意識して取り組むこと。							

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

授業科目名	単位数	シラバスページ
キリスト教人間学Ⅰ	2	1
キリスト教人間学Ⅱ	2	31
くらしと憲法	2	2
文学	2	4
子どもと自然	2	7
保育の英語	2	8
情報処理	2	10
生活科の研究	2	35
音楽の理論と合奏	1	11
声楽Ⅰ	1	12
声楽Ⅱ	1	36
器楽Ⅰ（ピアノ）	1	13
器楽Ⅱ（ピアノ）	1	37
保育内容の指導法 健康	2	40
保育内容の指導法 人間関係	2	16
保育内容の指導法 環境	2	41
保育内容の指導法 言葉	2	17
保育内容の指導法 表現	2	18
保育者論	2	19
心身の発達と学習過程	2	20
特別支援教育総論	2	21
教育課程・保育の計画と評価	2	44
幼児指導法	2	45
幼児理解と教育相談	2	46
保育・教職実践演習（幼稚園）	2	47
教育実習指導	1	55
保育原理	2	22
社会的養護Ⅰ	2	25
子ども家庭支援の心理学	2	49
子どもの保健	2	26
発達心理学	1	50
保育内容総論	1	51
乳児保育Ⅰ	2	28
乳児保育Ⅱ	1	52
子どもの健康と安全	1	29
社会的養護Ⅱ	1	53
子育て支援	1	54
保育実習指導Ⅰ	2	56
保育実習指導Ⅱ	1	57
単位数合計	65	

